

intra-mart WebPlatform/AppFramework
Ver.7.0

システム管理者 操作ガイド

❖ 変更履歴

変更年月日	変更内容
2008/07/07	初版
2009/02/27	第2版 「1.3 IM-Administrator」ログビューアに関する説明を追加
2009/06/30	第3版 「1.3.10.6 Serialization」誤植を修正
2011/06/30	第4版 「1.2.3.3 ログイングループの削除」を追記しました。

Contents

第1章 システム管理	1
1.1 システム管理	2
1.1.1 システム管理者の業務とログイン	2
1.1.2 ログイングループデータベース設定	6
1.2 システムメニューからの操作	7
1.2.1 システム管理者設定	7
1.2.2 ライセンス	8
1.2.3 ログイングループの設定	8
1.2.4 ログイングループライセンス	13
1.2.5 管理メニュー設定	13
1.2.6 ファイル操作	16
1.2.7 データベース操作	17
1.3 IM-Administrator	19
1.3.1 IM-Administratorの起動と終了	19
1.3.2 メニューの説明	20
1.3.3 Service Platformの起動	20
1.3.4 パスワードの変更	21
1.3.5 Server Managerログ	21
1.3.6 ラウンドロビン	22
1.3.7 Service Platform	23
1.3.8 パフォーマンス表示	23
1.3.9 Httpサーバ	24
1.3.10 Service Platform画面の設定項目	25
1.3.11 パフォーマンス表示	32
1.3.12 ログ	35
1.3.13 コマンドによるサーバの制御	36
第2章 設定ファイルによる機能拡張	38
2.1 システムデータベース設定	39
2.1.1 データベース設定の操作	39
2.2 パスワード履歴管理設定	40
2.2.1 パスワードの履歴管理	40
2.2.2 パスワード履歴管理の設定	40
2.3 2重ログイン防止機能	42
2.3.1 2重ログイン防止機能を有効にする	43
2.3.2 セッションの無効化の操作	43
2.4 ラウンドロビン機能の利用	44
2.5 HttpSessionのフェールオーバー	45
2.5.1 メモリ to メモリ方式	45
2.5.2 メモリ to RDB方式	45
2.6 LDAPとの連携	46
2.6.1 LDAP連携の設定	46
2.7 ページカラーパターン	48
2.7.1 標準のページカラーパターン	48
2.8 設定ファイル、初期化ファイル	49
2.8.1 設定ファイル「conf/imart.xml」	49
2.8.2 初期化ファイル「pages/src/init.js」	49
2.9 アクセスセキュリティの標準実装	50
2.9.1 標準実装における情報の保管場所	50
2.9.2 標準実装における注意点	50

第3章 Appendix	51
3.1 メンテナンス画面の文字入力制限	52
3.1.1 入力文字制限パターンの種類	52
3.1.2 適用フィールド	55

第1章 システム管理

1.1

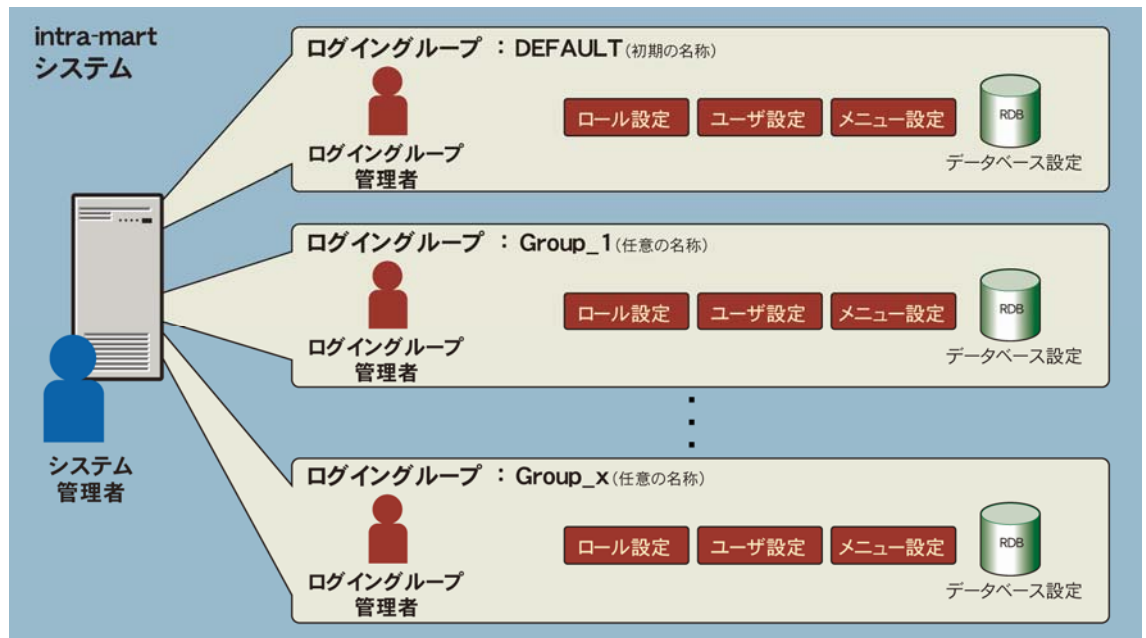
システム管理



1.1.1 システム管理者の業務とログイン

intra-martでは、ひとつのintra-martシステムを独立した複数の会社や組織などのグループで共同利用するようなASP型の活用方法（マルチシェア型アプリケーション）を取ることができます。同じハードウェアやアプリケーションを利用していながら、ロール、ユーザ、メニューそしてデータベースなどはグループごとに異なる設定で利用することができるので、各グループが個別のintra-martシステム利用している感覚で使用することができます。

Intra-martでは、共同で利用するそれぞれのグループを「ログイングループ」、その管理者を「ログイングループ管理者」と呼んでいます。そして、これら「ログイングループ」や「ログイングループ管理者」を統括管理するのが「システム管理者」です。



＜複数のログイングループを統括管理する「システム管理者」＞



1.1.1.1 システム管理者の業務

システム管理者は、intra-martのデータベース設定など共通の設定管理と各ログイングループとその管理者に関する次のような管理を行います。

データベース接続設定
システム管理者設定
ライセンス管理

ログイングループ管理
管理メニュー設定

intra-martのデータベースの接続設定を行います。
システム管理者自身のログイン名、パスワードなどの設定を行います。
購入したライセンスの確認と、各ログイングループに対する初期データおよびサンプルデータのインポートを行います。
ログイングループとその管理者に関する設定などの管理を行います。
ログイングループ管理者の画面に表示するメニューに関する管理を行います。

1.1.1.2 システム管理者のログイン

システム管理者は、以下の手順に従ってintra-martにログインします。

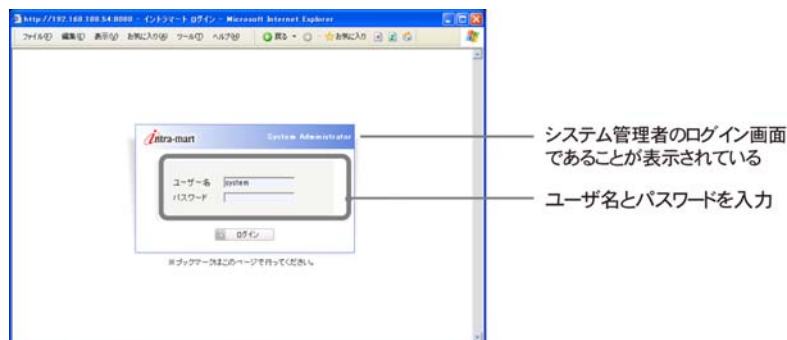
- 1 ブラウザを起動し、下記のようにintra-martのURLを入力します。
画面上には、intra-martのログイン画面が表示されます。

Intra-mart WebPlatform(スタンドアロン) : http://マシンアドレス:8080/imart/system.admin
 intra-mart WebPlatform(分散システム) : Webサーバコネクタの登録内容に合わせたURL
 intra-mart AppFramework : Webアプリケーションサーバに対するintra-martの登録内容に合わせたURL



- intra-mart WebPlatformをスタンドアロン形態で運用する場合、アクセスするURLのポート番号(Webサーバとしてのポート)は、インストール時に指定することができます。
- URLは、ブラウザのブックマークに登録しておくとう便利です。
- この他に、「ログイン画面なしで自動認証する方法」(→P. 4 Column参照)が用意されています。

- 2 ログイン画面で、ユーザ名とパスワードを入力して、[ログイン]ボタンをクリックします。



〈intra-martのログイン画面〉



- インストール直後のシステム管理者のユーザ名とパスワードは次のようになっています。ログイン後に[システム管理者設定]メニューで変更することをお勧めします。
ユーザ名:system パスワード:manager



〈システム管理者でログインした場合のintra-martの初期画面〉



Column

ログイン画面なしで自動認証する方法

intra-martにログインする際のURLに、次のようにユーザコードとパスワードを含めることができます。

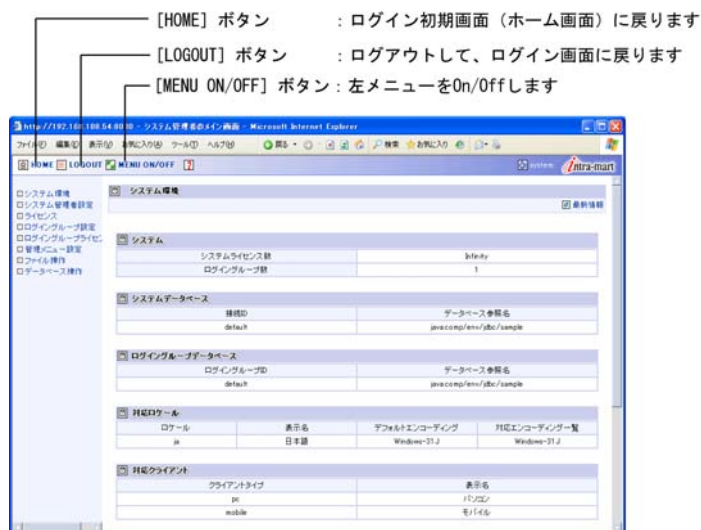
`http://intramart/imart/system.admin?im_user=xxxx&im_password=yyyy`

xxxx：ユーザコード yyyy：パスワード

上記のURLのように入力してログインすると、ログイン画面なしで自動認証されます。

1.1.1.3 ホーム画面

ホーム画面は、intra-martログイン時に表示される初期画面です。メニューを選択して各種画面が表示されている場合には、画面左上の[HOME]ボタンをクリックするとホーム画面が表示されます。



1.1.1.4 システム管理者のメニュー

ホーム画面の左メニューには、システム管理者が操作できる次のようなメニューが表示されています。

システム環境	intra-martのシステム環境の設定値が表示されています。
システム管理者設定	システム管理者自身のログイン名、パスワードなどの設定を行います。
ライセンス	購入したライセンスの確認と、各ログイングループに対する初期データおよびサンプルデータのインポートを行います。
ログイングループ設定	ログイングループとその管理者に関する設定などの管理を行います。
ログイングループライセンス	ログイングループ毎のライセンス数を設定します。
管理メニュー設定	ログイングループ管理者の画面に表示するメニューに関する管理を行います。
ファイル操作	%StorageServiceRoot%/storage/以下のファイルやディレクトリを操作するためのユーティリティです。
データベース操作	データベースに対してSQL文を直接実行するための簡易ツールです。

1.1.1.5 intra-martからのログアウト

ログイン画面に戻るとログアウトしたことになり、intra-martを終了できます。ログイン画面に戻るには、画面左のメニュー上部に用意されている[LOGOUT]ボタンをクリックします。



- メニューの[LOGOUT]ボタンをクリックせずにブラウザを終了した場合や、他のページに移動してintra-martの画面から離れてしまった場合、intra-martサーバ内ではセッションがタイムアウトするまでログイン状態を継続しているものとみなされます。必ずメニューの[LOGOUT]ボタンをクリックしてください。



1.1.2 ログイングループデータベース設定

intra-mart WebPlatform/AppFrameworkは、データベースの利用が前提となっているので、インストール時には、必ずデータベースの設定が必要となります。Ver5.0から、ひとつ以上のログイングループを設定しなければなりませんので、ログイングループごとにデータベースの設定が必要となります。

ログイングループデータベース

ログイングループ毎に1つのみ設定します。
ログイングループのデフォルトデータベースとなります。



1.1.2.1 データベース設定の操作

設定は、サーバマネージャインストールディレクトリ/conf/data-source.xmlにて設定します。
以下に、設定の例を示します。

```
例:data-source.xml
<data-source>
...
  <group-data-source>
    <login-group-id>group1</login-group-id>
    <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/oracle1</resource-ref-name>
  </group-data-source>
  <group-data-source>
    <login-group-id>group2</login-group-id>
    <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/oracle2</resource-ref-name>
  </group-data-source>
...
</data-source>
```

group-data-source

ログイングループデータベースのデータソース設定を行います。

login-group-id

ログイングループID

resource-ref-name

データソースを表すjndi名の設定を行います。



- データベースの設定を変更した場合は、アプリケーションランタイムの再起動が必要です。

1.2

システムメニューからの操作



1.2.1 システム管理者設定

システム管理者設定は、自分自身のユーザIDやパスワードの管理、使用言語（ロケール）、その他の登録情報の管理を行う画面です。

http://192.168.108.54:8080 - システム管理者のメイン画面 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H) 戻る 検索 お気に入り

HOME LOGOUT MENU ON/OFF ?

system intra-mart

システム管理者メンテナンス

ユーザID(必須) system

パスワード *****

パスワード(確認) *****

ロケール []

メールアドレス []

電話番号 []

更新

<システム管理者設定画面>

ユーザID(必須)

システム管理者のログインIDを入力します。デフォルトでは、「system」となっており、任意に変更することができます。

パスワード

システム管理者がログインする際に使用する、パスワードです。デフォルトでは、「manager」となっており、任意に変更することができます。

パスワード(確認)

[パスワード]で入力した文字列を再度入力します。

ロケール

intra-martは多言語化に対応していますので、ここでシステム管理者が使用する言語を選択します。デフォルトは「日本語」になっています。

メールアドレス

システム管理者への連絡先としてのメールアドレスです。intra-martアプリケーションで、システム管理者へ連絡する際に使用することができます。

電話番号

システム管理者への連絡先としての電話番号です。



1.2.2 ライセンス

■ システムライセンス

intra-martのライセンスおよびその数量等が表示されます。

その他、この画面からデータベースに対して、管理メニューや初期データ、サンプルデータのインポートを行います。初期データとサンプルデータに関しては、ログイングループごとのデータベースに対してインポートする必要があるため、[インポート]ボタンの前にあるコンボボックスからログイングループ名を選択してから、[インポート]ボタンをクリックします。



この画面に表示されているライセンス数は、システム全体のライセンス数です。複数のログイングループが存在する場合には、システム管理者がそれぞれのログイングループに対して、ライセンス数を分配しなければなりません。ログイングループに対するライセンス数の分配は、「ログイングループライセンス管理」で行います。なお、ログイングループ内で、どのユーザにライセンスを発行するかは、ログイングループ管理者が設定することとなります。

■ アプリケーションおよびエクステンションのライセンス

アプリケーションおよびエクステンションをインストールされた場合、各製品のライセンス設定画面が追加表示されます。ここでも、システムのライセンス同様、データのインポート等が可能です。下図はスタートパックをインストールされた場合に表示される画面の例です。



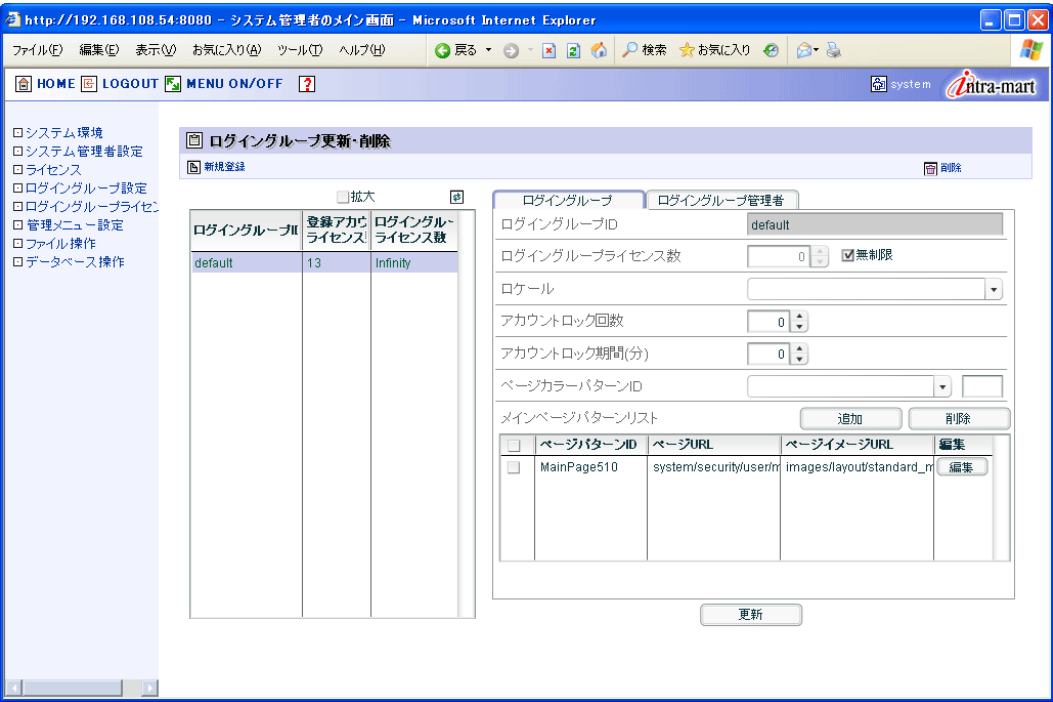
1.2.3 ログイングループの設定

intra-martでは、複数のログイングループを設定できます。システム管理者は、ひとつ以上のログイングループを設定し、そのログイングループ管理者を登録します。作成したログイングループの管理は、ここで設定したログイングループ管理者に任せることになります。設定は、[ログイングループ設定]で行います。新規にログイングループを作成する場合は、上部の[新規登録]をクリックします。また、ここでログイングループIDとして登録した名前が、URLの一部となります。

ログイングループID :default
ログイングループ管理者 :http://[マシンアドレス]/imart/default.manager
ログイングループ利用一般ユーザ:http://[マシンアドレス]/imart/default.portal

1.2.3.1 [ログイングループ]タブ

ここでは、作成するログイングループの基礎データの登録を行います。ここでの設定は、ログイングループのデフォルトの設定となりますが、ログイングループ管理者や各ユーザの設定が優先されます。



この画面で、「口拡大」をクリックすると、ログイングループ名、登録アカウントライセンス数、ログイングループライセンス数などの項目領域を拡大して表示することができます。

<ログイングループ設定画面 — ログイングループタブ>

ログイングループID	ログイングループの名称です。
ログイングループライセンス数	システム全体のライセンス数のうち、このログイングループに割り振るライセンス数を入力します。システム全体のライセンスが無制限 (Infinity) である場合のみチェックできます。
ロケール	このログイングループがデフォルトで使用する言語を選択します。
アカウントロック回数	ログイン時に、ログインIDとパスワードが認証されなかった場合、ここで設定した回数を経過すると、「アカウントロック期間」で設定した時間 (分単位) だけログインの操作ができなくなります。回数を「0」とすると、アカウントロックすることなく、ログインを試行することができます。
アカウントロック期間 (分)	アカウントロックされた場合、ここで設定した時間 (分) ログインすることができなくなります。 「0」を設定すると、ロックを解除しなくなります。 この場合、ロックを解除するには、ログイングループ管理者が「アカウント設定画面」にて、手動で解除する必要があります。
ページカラーパターン	このログイングループがデフォルトで使用する画面の色調を選択します。色調は、あらかじめ、「青」、「緑」、「グレー」、「オレンジ」、「赤」の5つが登録されています。
メインページパターン	このログイングループがデフォルトで使用する画面パターンを設定します。画面パターンは、追加、削除することもできます。ここには、一般ユーザのログイン後に表示されるのページURLをリストします。ユーザは、このリスト内から、好きなログイン後に表示されるページを選択できます。

■メインページパターンの追加

メインページは、ユーザが追加、削除、そして編集することができます。標準では、標準のデザインと、V5.xの2つのデザインのメインページパターンが用意されています。

メインページパターン追加

ページパターンID(必須)

ページURL(必須)

ページイメージURL

追加

キャンセル

<メインページパターンの追加および編集画面>

ページパターンID (必須)	ログイン後に表示されるページのパターンIDを入力します。
ページURL (必須)	ログイン後に表示されるページパターンのURLを入力します。指定するURLがスクリプト開発モデルの場合は、pages/**/srcからの相対パスで、最後に拡張子 (.jsp) を付けます。それ以外は、コンテキストパスからの相対パスで指定します。
ページイメージURL	ログイン後に表示されるページのパターンの概要イメージのURLを入力します。コンテキストパスからの相対パスで指定します。

1.2.3.2 [ログイングループ管理者]タブ

[ログイングループ管理者] タブでは、システム管理者が作成したログイングループの責任者のユーザIDやパスワードを登録します。ログイングループ管理者は、ここで設定したユーザIDやパスワードでログインした後、すべての項目を変更することができます。

The screenshot shows a web browser window displaying the 'Login Group Management' tab. On the left is a sidebar menu with options like 'System Environment', 'System Administrator Settings', 'Licenses', 'Login Group Settings', 'Login Group License', 'Management Menu Settings', 'File Operations', and 'Database Operations'. The main content area has a title 'ログイングループ更新・削除' and a '新規登録' button. Below this is a table with columns 'ログイングループID', '登録アカバライセンス', and 'ログイングループライセンス数'. The first row shows 'default', '13', and 'Infinity'. To the right of the table is a form for 'ログイングループ管理者' (Login Group Administrator) with fields for 'ユーザID(必須)' (User ID), 'パスワード' (Password), 'パスワード(確認)' (Password Confirmation), 'ロケール' (Locale), 'メールアドレス' (Email Address), and '電話番号' (Phone Number). A '更新' (Update) button is at the bottom right of the form.

＜ログイングループ設定画面 — ログイングループ管理者タブ＞

ユーザID(必須)
パスワード
パスワード(確認)
ロケール
メールアドレス
電話番号

ログイングループ管理者のログインIDを入力します。
ログイングループ管理者がログインする際に使用する、パスワードです。
[パスワード]で入力した文字列を再度入力します。
intra-martは多言語化に対応していますので、ここでログイングループ管理者が使用する言語を選択します。デフォルトは「日本語」になっています。
ログイングループ管理者への連絡先としてのメールアドレスです。intra-martアプリケーションで、システム管理者へ連絡する際に使用することができます。
ログイングループ管理者への連絡先としての電話番号です。

1.2.3.3 ログイングループの削除

ログイングループ設定画面上部の[削除]をクリックすると、選択したログイングループの削除を行うことができます

ただし、ログイングループに関連する全ての情報を削除しません。削除されずに残る情報は必要に応じて手作業で削除してください。

削除されずに残る情報は以下の通りです。

■ データベース

テーブル、データベースそのもの

ログイングループデータソースに作られるintra-martが動作する上で必要なテーブルや、データベースそのものは削除されません。

手動で削除する場合は、お使いのデータベース製品のマニュアルに従い削除してください。

■ Permanent Data Service

treasure/box.properties

Permanent Data Serviceの設定ファイルです。削除済みのログイングループのアカウント情報格納先ファイルの記述が削除されません。

設定済みのログイングループ情報を参照できなくなるので、ファイルそのものを削除しないでください。

削除対象は、ログイングループIDを左辺に持つ行です。なお、右辺の値がアカウント情報格納先ファイル名です。

treasure/box/im-license/account
/[ランダムな文字列].box

削除済みログイングループのアカウント情報格納先ファイルの記述が削除されません。

削除対象は、上記box.propertiesのログイングループIDを左辺に持つ行の右辺に当たるファイルです。

treasure/box/system/[ランダムな
文字列].box

メインページパターンの保存先ファイルです。キー情報の記述が削除されません。

バイナリファイルになっていますので、編集しないでください。

手動で削除する場合は、上記「削除対象」の行を該当するファイルから削除してください。

■ Storage Service

basemodule/item/[ログイングループID]

商品マスタのカatalog (ファイル) の格納先です。

basemodule/wkf/app/[ログイングループID]

v4.1以前のワークフロー用の添付ファイルの格納先です。

basemodule/wkf/temporary/[ログイングループID]

v4.1以前のワークフロー用の添付ファイルの一時的な格納先です。

bpw/attach/temporary/[ログイングループID]

ワークフローの添付ファイルの格納先です。

bpw/attach/temporary/[ログイングループID]

ワークフローの添付ファイルの一時的な格納先です。

bpw/attach/reserve/[ログイングループID]

ワークフローの申請時添付ファイルの一時的な格納先です。

bpw/code_manager/[ログイングループID]

ワークフローの採番用ファイルの格納先です。

bpw/reserve_process/[ログイングループID]

ワークフローの削除したプロセス情報の格納先です。

intramart/datastore_public/master/[ログイングループID]

アプリケーション共通マスタのインポート・エクスポート先です。

logo/[ログイングループID]

ロゴファイルの格納先です。

portal/cache/[ログイングループID]

ポータル キャッシュデータの格納先です。

portal/portals/[ログイングループID]

グループポータルのテンプレートデータの格納先です。

sample/bpms/attachment[ログイングループID]

im-BPMのサンプルプログラムの格納先です。

手動で削除する際は、上記ファイルまたはフォルダを削除してください。なお、機能を使用していない場合ファイルやフォルダが存在しない場合があります。

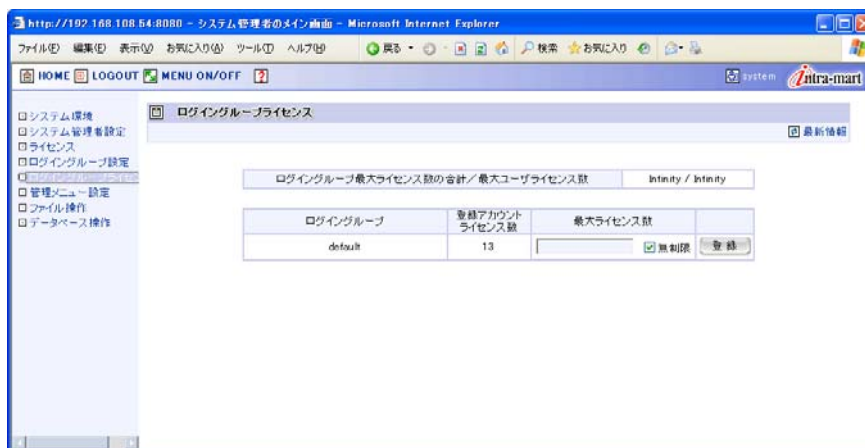


- ここに挙げたものは、intra-mart WebPlatform/AppFrameworkが管理する情報のみになります。intra-martアプリケーションシリーズや、intra-martエクステンションが管理するログイングループ毎に作られる情報については、該当する製品のドキュメントを参照してください。



1.2.4 ログイングループライセンス

intra-martのライセンス登録は、まずインストール時に行います。システム管理者は、この全体のライセンス数を各ログイングループに割り振る作業を行います。この作業を行う画面が、[ログイングループライセンス] です。同じ操作は、[ログイングループ設定] でログイングループを作成する際にも行えますが、複数のログイングループがある場合には、[ログイングループライセンス] のほうが効率よく設定することができます。



〈ログイングループライセンス画面〉

ログイングループ最大ライセンス数の
合計/最大ユーザライセンス数

登録アカウントライセンス数

最大ライセンス数

購入したシステム全体のライセンス数の表示です。

各ログイングループでログイングループ管理者が実際にユーザに割り振り、使用されているライセンス数の表示です。この数値を参考にしながら、「最大ライセンス数」に適切なライセンス数を割り振ります。

システムライセンス数の範囲内で、各ログイングループにライセンスを振り分けます。入力後は[登録]ボタンをクリックします。

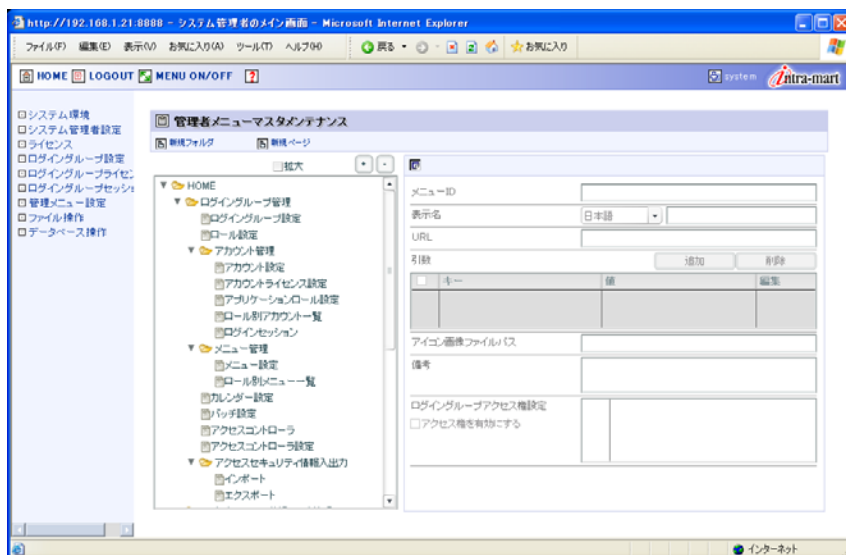
ここで各ログイングループに割り振ったライセンスは、ログイングループ管理者の采配によってユーザに割り振ることになります。この操作は、ログイングループ管理者が[ログイングループ管理] - [アカウント設定]、または[ログイングループ管理] - [アカウントライセンス設定]で行います。



1.2.5 管理メニュー設定



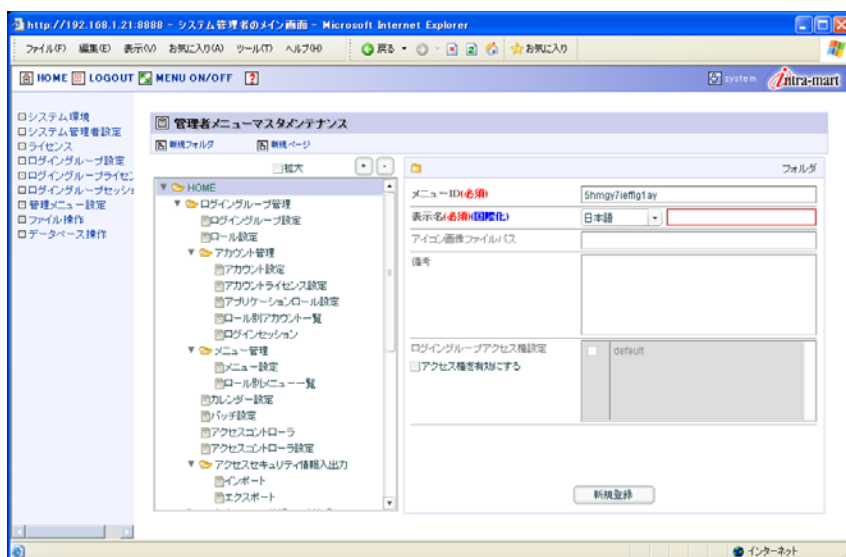
管理メニュー設定とは、ログイングループ管理者の画面に表示されるメニューを設定する画面です。この画面では、メニューに表示されるフォルダやページの追加、削除、更新などの操作が行えます。なお、一般ユーザの画面に表示されるメニューに関しては、各ログイングループ管理者が設定を行い、システム管理者が設定することはできません。



＜管理者用のメニューを設定する画面＞

1.2.5.1 新規フォルダの作成

メニューに新規フォルダを追加するには、上部にある「新規フォルダ」アイコンをクリックします。新規に作成されたフォルダは、ツリー上で現在選択されているフォルダやページの配下に登録されます。なお、ツリー上で作成したフォルダをドラッグすることで登録する位置を変更できます。登録位置の変更については、「1.7.4 フォルダやページの表示順の変更」を参照してください。登録後は、画面下部の「新規登録」ボタンをクリックします。



＜新規フォルダの作成＞

メニューID (必須)

作成するフォルダのIDを入力します。初期値には、自動採番されたコードが設定されます。

表示名 (必須・ロケール)

フォルダの作成時には、登録されているロケールすべてについてフォルダ名を登録しなければなりません。ここでは、まずこれから登録するフォルダ名のロケールを選択します。

表示名 (必須・名称)

選択したロケールに対応したフォルダ名を入力します。ここで入力した文字列がメニューに表示されます。なお、ロケールとして複数の言語を登録している場合、すべての言語についてフォルダ名を入力します。

アイコン画像ファイルパス

作成するフォルダにつけるアイコンのパスを入力します。

備考

フォルダに関する備考を入力します。

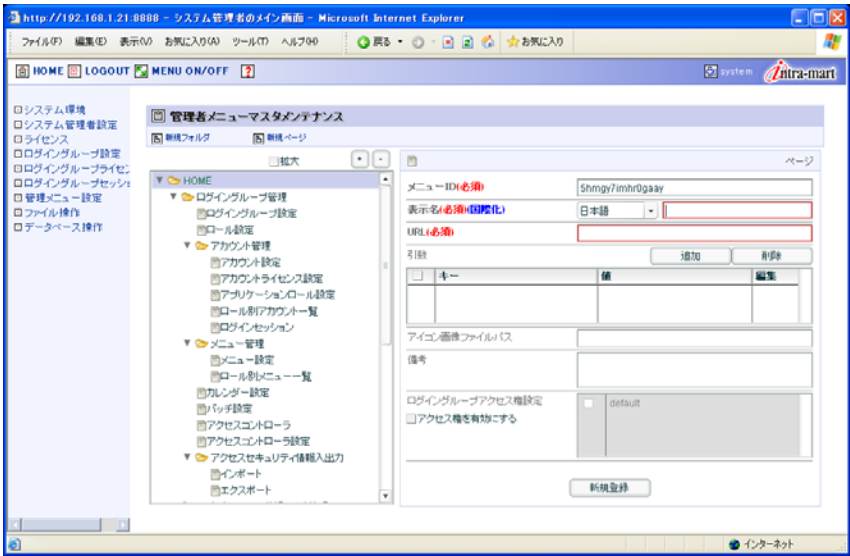
ログイングループアクセス権設定
(アクセス権を有効にする)

ログイングループ単位に表示権限の設定が行えます。「アクセス権を有効にする」チェックボックスをチェックします。右側には、ログイングループのリストが表示されているので、表示させたいログイングループを選択します。「アクセス権を有効にする」をチェックしない場合は、すべてのグループ管理者のメニューに表示されます。



1.2.5.2 新規ページの作成

メニューに新規ページを追加するには、上部にある「新規ページ」アイコンをクリックします。新規に作成されたページは、ツリー上で現在選択されているフォルダやページの配下に登録されます。なお、ツリー上で作成したページをドラッグすることで登録する位置を変更できます。登録位置の変更については、「1.7.4 フォルダやページの表示順の変更」を参照してください。登録後は、画面下部の「新規登録」ボタンをクリックします。



＜新規ページの作成＞

- メニューID (必須)
- 表示名 (必須・ロケール)
- 表示名 (必須・名称)
- URL (必須)
- 引数
- アイコン画像ファイルパス
- 備考
- ログイングループアクセス権設定
(アクセス権を有効にする)

作成するページのIDを入力します。初期には、自動採番されたコードが表示されていて、変更することができます。

ページの作成時には、登録されているロケールすべてについてページ名を登録しなければなりません。ここでは、まずこれから登録するページ名のロケールを選択します。

選択したロケールに対応したページ名を入力します。ここで入力した文字列がメニューに表示されます。なお、ロケールとして複数の言語を登録している場合、すべての言語についてページ名を入力します。

実際に表示したいページのURLを記述します。指定するURLがスクリプト開発モデルの場合は、pages/**/srcからの相対パスで、最後に拡張子(jssp)を付けます。それ以外は、コンテキストパスからの相対パスで指定します。

ページ起動時に必要な引数がある場合には、ここで「追加」ボタンをクリックして登録します。登録した引数は、いつでも更新・削除することができます。

作成するページにつけるアイコンのパスを入力します。

ページに関する備考を入力します。

ログイングループ単位に表示権限の設定が行えます。「アクセス権を有効にする」チェックボックスをチェックします。右側には、ログイングループのリストが表示されているので、表示させたいログイングループを選択します。「アクセス権を有効にする」をチェックしない場合は、すべてのグループ管理者のメニューに表示されます。

1.2.5.3 フォルダやページの更新と削除

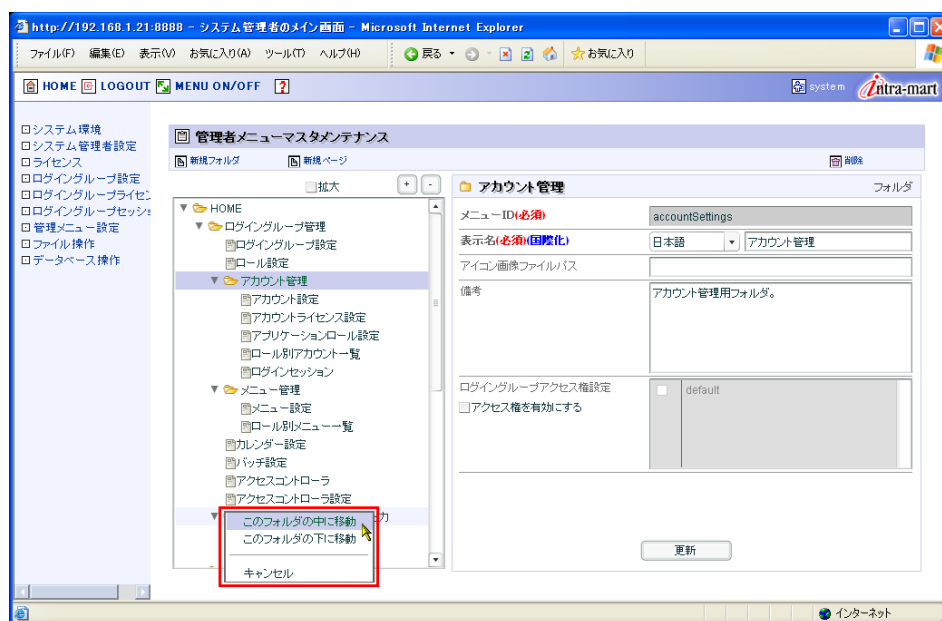
既存のフォルダやページを更新や削除するには、まずツリー上で該当するフォルダやページを選択します。右に詳細な情報が表示されるので、変更することができます。変更の反映は、[更新] ボタンで行います。フォルダやメニューを削除するには、選択した状態で、[削除] アイコンをクリックします。

1.2.5.4 フォルダやページの表示順の変更

既存のフォルダやページの表示順序を変更するには、ツリー表示で該当するフォルダやメニューを任意の位置までドラッグします。マウスがアイコンの上にある場合にドラッグが可能です。

ドラッグした先がページの場合は、そのすぐ次に移動します。

ドラッグした先がフォルダの場合には、そのフォルダの中あるいは配下への移動を選択するメニューが表示されます。



＜「Myアプリケーション」フォルダを「ポータル」フォルダにドラッグした場合の例＞

1.2.6 ファイル操作

このアプリケーションは、%StorageServiceRoot%/storage/以下のファイルやディレクトリを操作するためのユーティリティです。ディレクトリやファイルの新規作成、ファイルの削除やアップロード、名称の変更、テキスト編集などが行えます。アップロードされたファイルはStorage Serviceに保存されます。



＜ファイル操作画面＞



1.2.6.1 ツリーでディレクトリ選択時

ディレクトリを選択した状態では、次のような操作が行えます。

新規作成[ディレクトリ]	選択しているディレクトリ配下に、新規ディレクトリを作成します。
新規作成[ファイル]	選択しているディレクトリ配下に、新規ファイルを作成します。
名称変更	選択しているディレクトリの名称を変更できます。
削除	選択しているディレクトリを削除します。
[アップロード]ボタン	選択しているディレクトリ配下に、任意のファイルをアップロードできます。



1.2.6.2 ツリーでファイル選択時

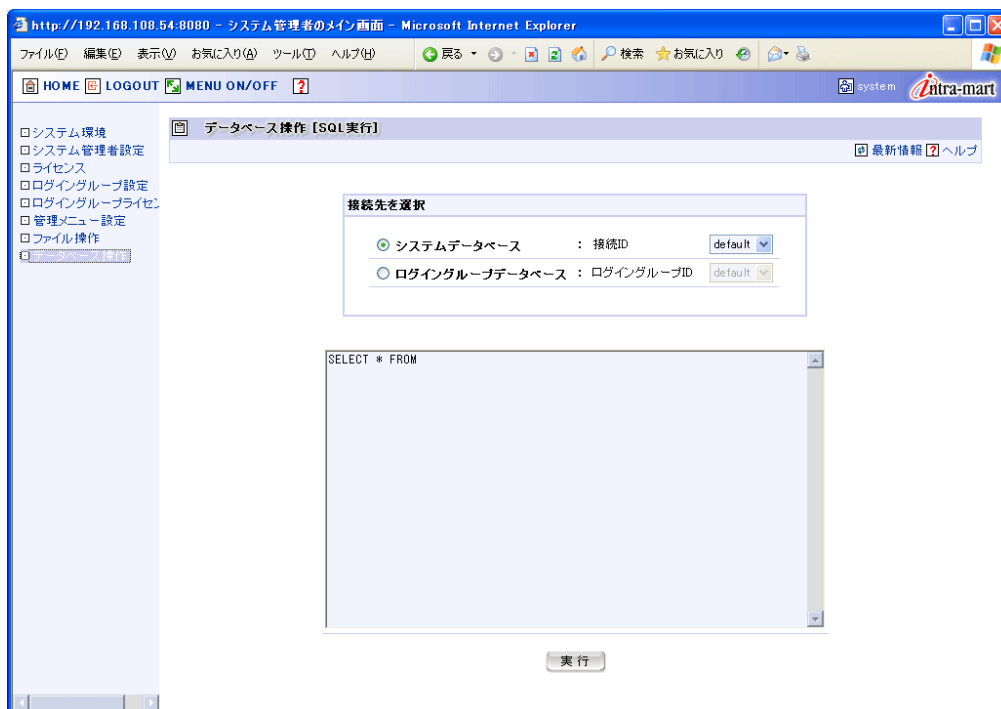
ファイルを選択した状態では、次のような操作が行えます。

名称変更	選択しているファイルの名称を変更できます。
削除	選択しているファイルを削除します。
ダウンロード	選択しているファイルをダウンロードします。



1.2.7 データベース操作

データベースに対してSQL文を直接実行するための簡易ツールです。接続先として、システムデータベースまたはログイングループ用のデータベースを選択した上で、テキストエリアにSQL文を記入し、[実行]ボタンをクリックします。

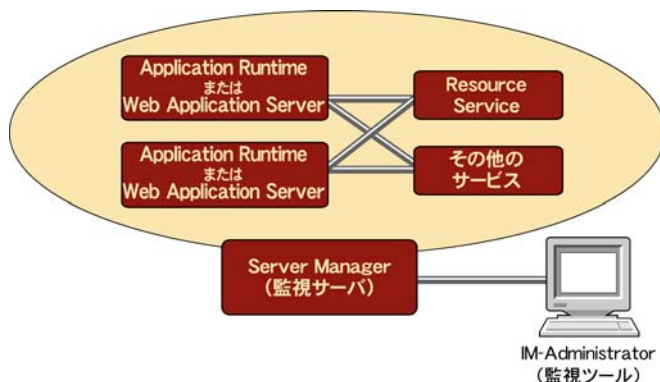


〈データベース操作画面〉

1.3

IM-Administrator

監視ツール「IM-Administrator」は、intra-martのService Platformの情報を収集しているServer Manager(監視サーバ)に接続して、各Service Platformの状態の監視、起動、停止等の設定が行えます。



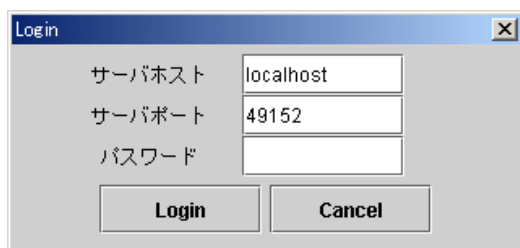
＜IM-Administratorの機能と概念＞



1.3.1 IM-Administratorの起動と終了

IM-Administratorは、intra-martとは独立したアプリケーションです。Server Managerはintra-martの各種Serviceとは独立したサーバにインストールします。

- 1 [スタート]メニューからIM-Administratorを起動します。
[ログイン] ダイアログボックスが表示されます。



＜[ログイン]ダイアログボックス＞

- 2 Server Managerのアドレス、ポートそしてパスワードを入力します。
IM-Administratorのメイン画面が表示され、各種設定を行います。



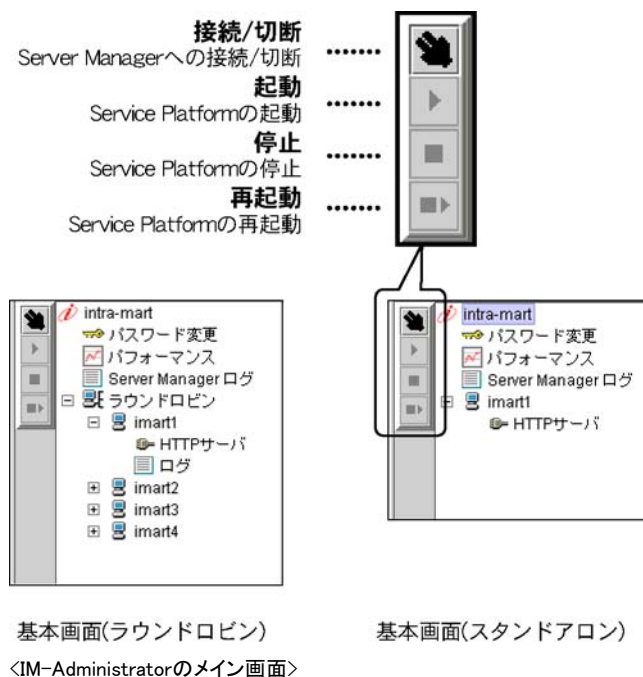
- インストール時のパスワードは「intramart」になっています。ログイン後にパスワードを変更することをお勧めします。パスワードの変更は、「1.8.4 パスワードの変更」を参照してください。
- IM-AdministratorはServerManagerと接続することにより、intra-martシステムを管理しますが、ServerManagerに接続できるIM-Administratorは一つとなります。
- 複数のIM-Administratorを起動し、同じServerManagerに接続しようとするとは後から接続しようとしたIM-Administratorは、接続できません(同一マシン内で、複数のIM-Administratorを起動し、同じServerManagerに接続しようとするとは先に接続したIM-Administratorの接続も切断されてしまいます)。
- IM-Administrator利用中は、Server ManagerおよびService Platformの負荷が増加します。また、各種情報をIM-Administratorに対して転送するため、ネットワークトラフィックも増加します。

終了は、Windowsの通常のアプリケーションと同様に終了します。



1.3.2 メニューの説明

IM-Administratorのメイン画面では、intra-martのService Platformが一覧表とビジュアルに表示されます。ここでは、一覧表またはビジュアルな構成図から状態の監視や設定を行いたいサーバを選択します。



画面左側のツリーをクリックすると、画面右側に情報が表示されます。



1.3.3 Service Platformの起動

操作対象のService Platform（画面ではimart1、imart2、imart3、imart4）をクリックして選択状態にしてから起動/停止/再起動ボタンをクリックします。

ラウンドロビン運用時には「ラウンドロビン」を選択することで、全てのService Platformをまとめて起動/停止/再起動することができます（imart1、imart2、imart3、imart4は例です。このIDはService Platformインストール時にインストーラで設定します）。

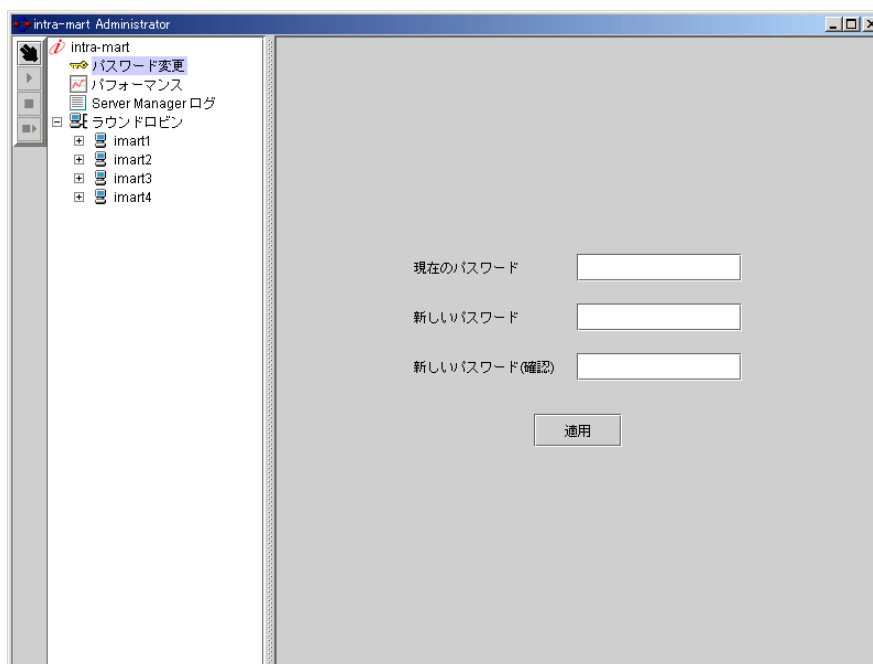


- Server Managerを起動・停止制御することはできません。
- intra-mart AppFrameworkでスタンドアロン型の場合は、起動・停止制御することはできません。
また、intra-mart AppFrameworkで分散構成の場合は、Application Runtimeの動作しているサーバ(ご利用のアプリケーションサーバ)を起動・停止制御することはできません。



1.3.4 パスワードの変更

IM-Administratorのログインパスワードを変更します。初期パスワードは「intramart」になっています。

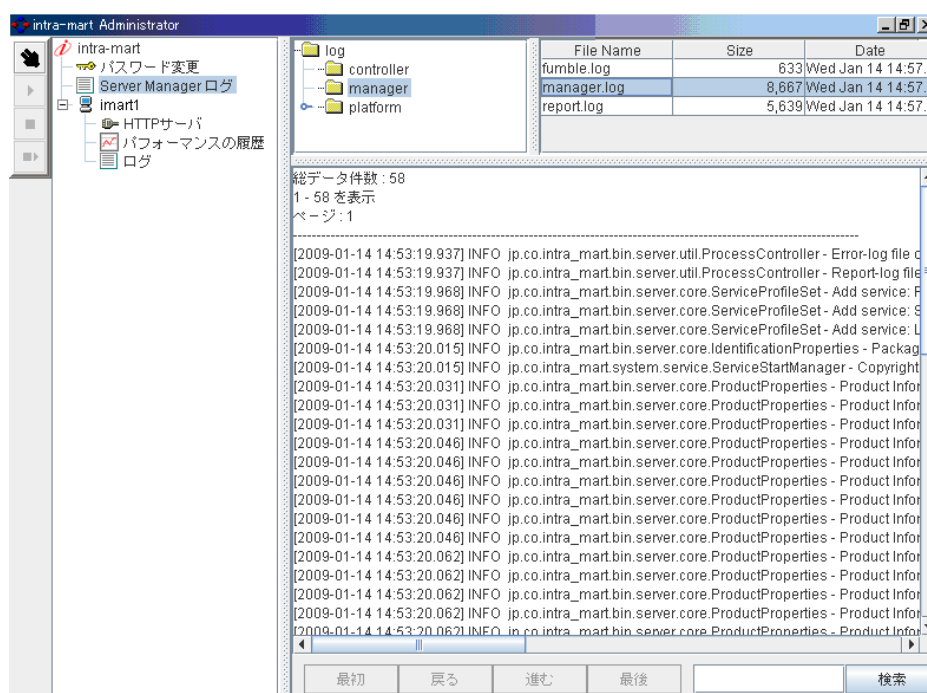


＜[パスワード変更]ダイアログボックス＞



1.3.5 Server Managerログ

Server Managerのインストールディレクトリ配下にある「/log」ディレクトリ内のファイルを閲覧することができます。

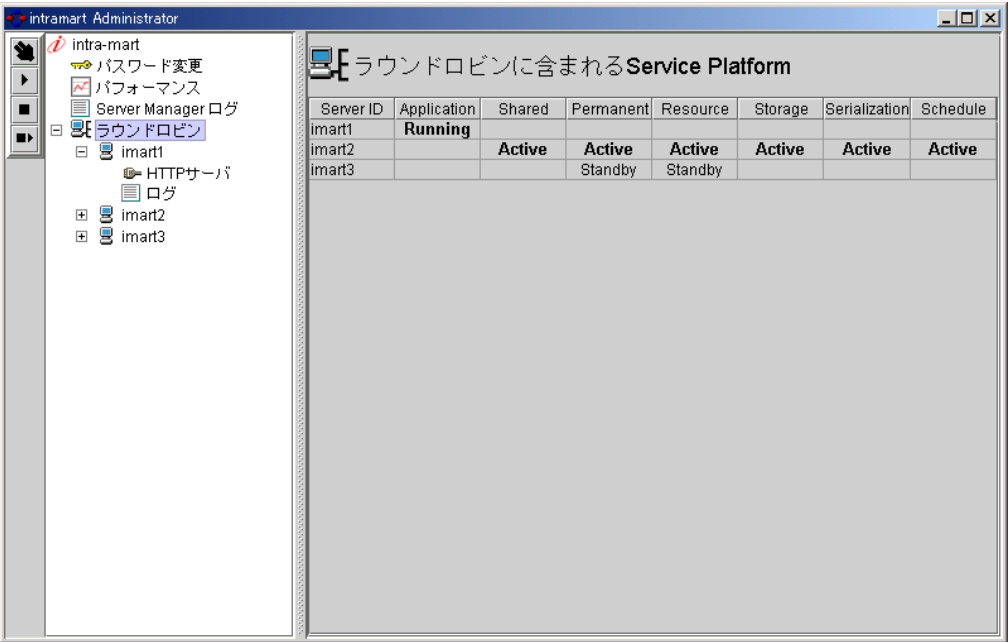


＜Server Managerログの表示＞



1.3.6 ラウンドロビン

ラウンドロビンに含まれているService Platformの一覧およびサービスの状態が表示されます。ただし、この画面は、ラウンドロビン運用時のみ表示されます。



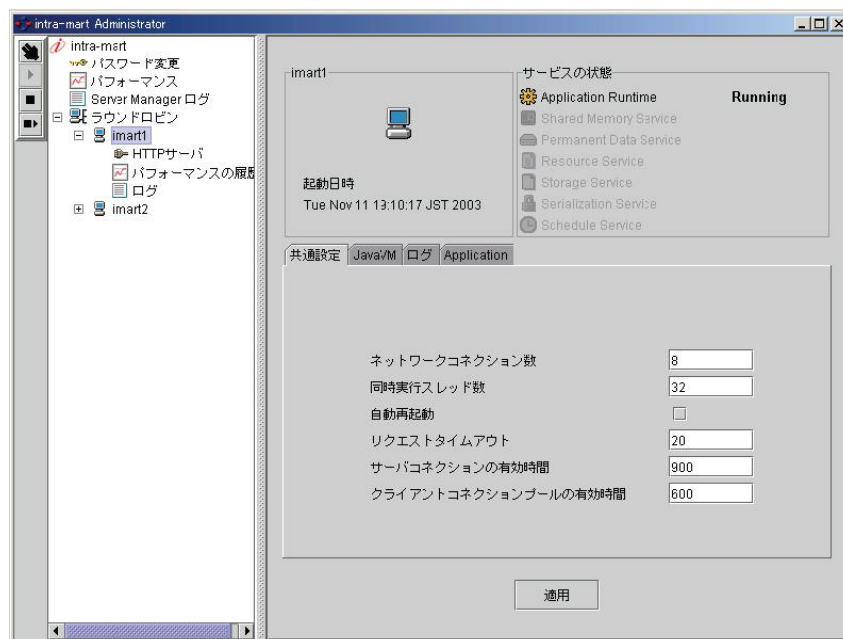
- Application Runtime
- Running
- Stopped
- その他のサービス
- Active
- Standby
- Stopped

- サービスは実行中です。
- サービスは停止中です。
- サービスは実行中です。
- サービスはスタンバイ状態です。
- サービスは停止中です。



1.3.7 Service Platform

Service Platformのサービスの状態、および設定の変更を行います（画面ではimart1）。画面の各設定項目に関しては、次の「1.3.10 Service Platform画面の設定項目」を参照してください。

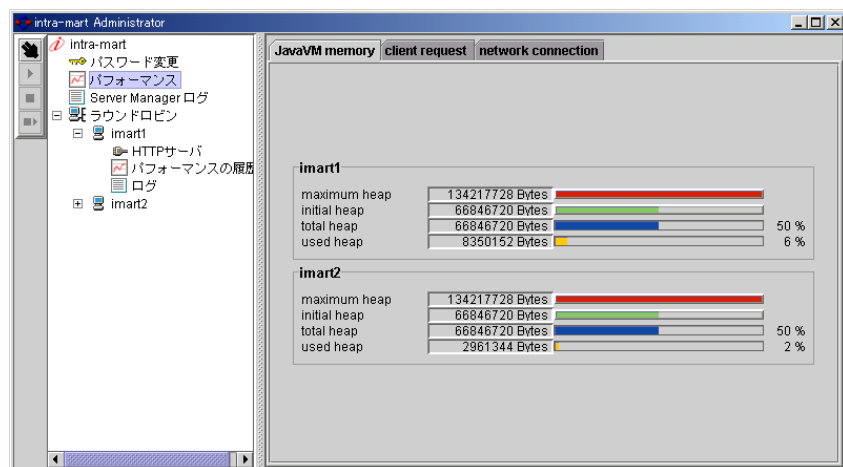


＜Service Platformの状態表示＞



1.3.8 パフォーマンス表示

Service Platformのメモリ状態、ネットワークコネクションなどの状態と履歴が表示されます。ラウンドロビン運用時には各ServicePlatformの状態を一覧表示した画面が表示されます。画面の各項目に関しては、以降の「パフォーマンス表示」を参照してください。



＜パフォーマンス表示＞



1.3.9 Httpサーバ

Application RuntimeのWebサーバの設定を行います。この機能は、intra-mart WebPlatformでのみ使用できます。



セッションタイムアウト

最大セッション保持数

セッションをcookieに保存

セッションをURLに付加

セッションIDの再利用

セッションを保持する時間です。

セッションを保持する最大数です。この数を超えた場合、既存のセッションがランダムに破棄されます。

セッション情報をブラウザのcookieに保存します。

セッション情報ブラウザのリクエストURLに付加します。

タイムアウトしたセッションのIDを再利用します。



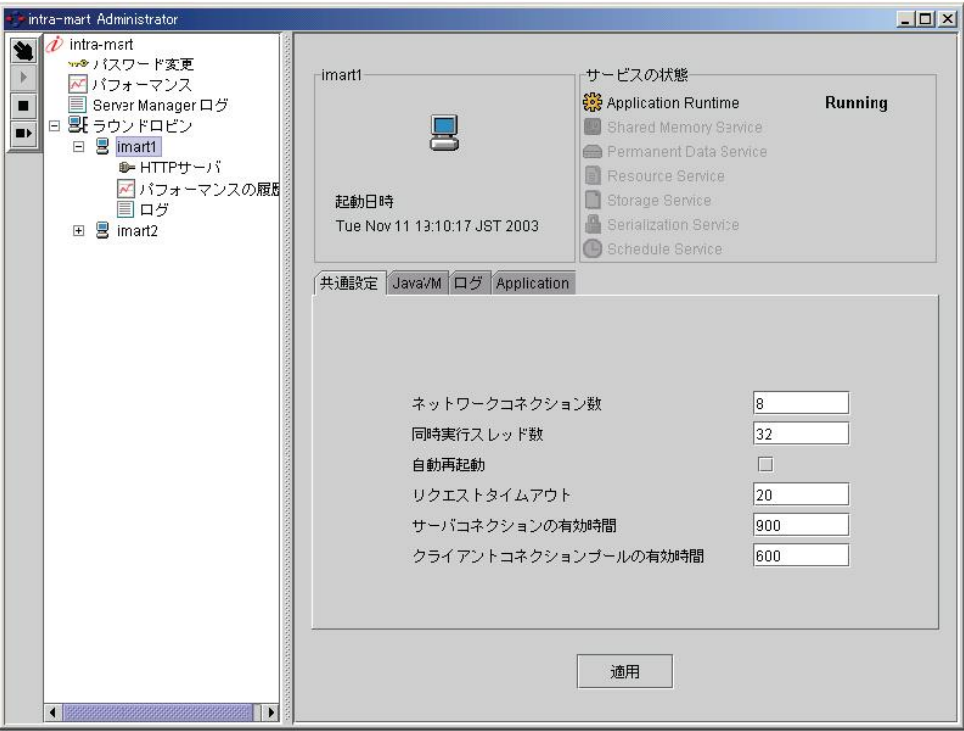
1.3.10 Service Platform画面の設定項目

Service Platform（画面ではimart1）のサービスの状態、および設定の変更を行います。



1.3.10.1 共通設定

Service Platformの基本設定です。



Service Platform ポート

Service Platformが他のService Platformと通信を行うためのポートです。対象のService PlatformにApplication Runtimeが存在する場合は表示されません。

ネットワークコネクション数

Service Platformが他のService Platformと通信を行うためのコネクション数です。

同時実行スレッド数

Service Platformが同時に処理を行うスレッドの数です。

自動再起動

Service Platformなんらかの例外でダウンしてしまった場合、自動的に再起動を行います。

リクエストタイムアウト

Service Platform間のネットワークリクエスト時のタイムアウト時間です。

サーバコネクションの有効時間

Service Platform間通信のサーバ側接続待機時間です。

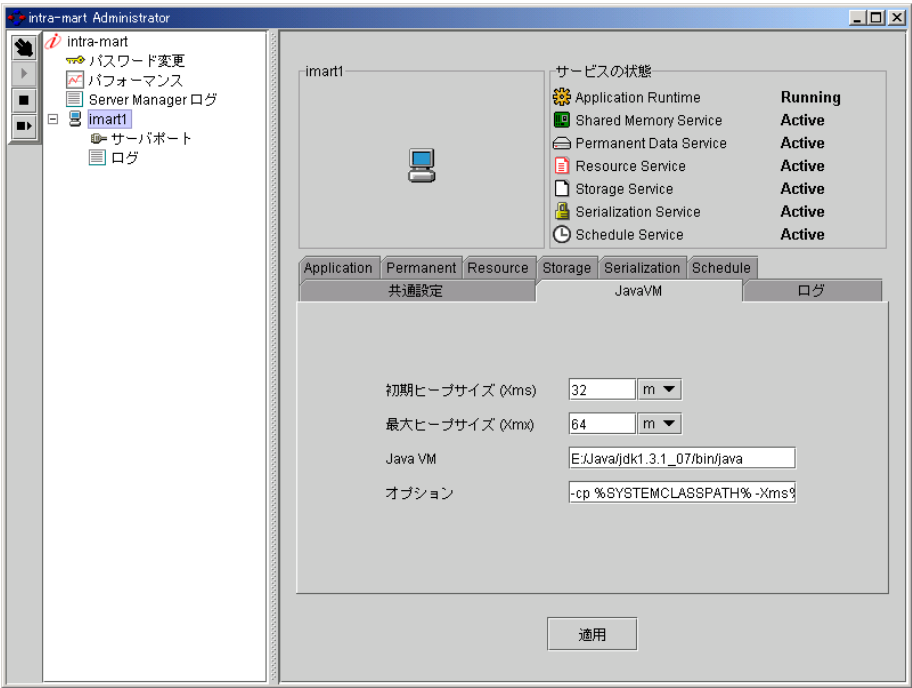
クライアントコネクションプールの有効時間

Service Platform間通信のクライアント側コネクションプールを保持する時間です。



1.3.10.2 JavaVM

Service PlatformのJava起動設定です。



初期ヒープサイズ
最大ヒープサイズ
JavaVM
オプション

Service Platformの初期ヒープサイズです。
Service Platformの最大ヒープサイズです。
Service Platformを起動するJavaVMです。
Java起動オプションです。

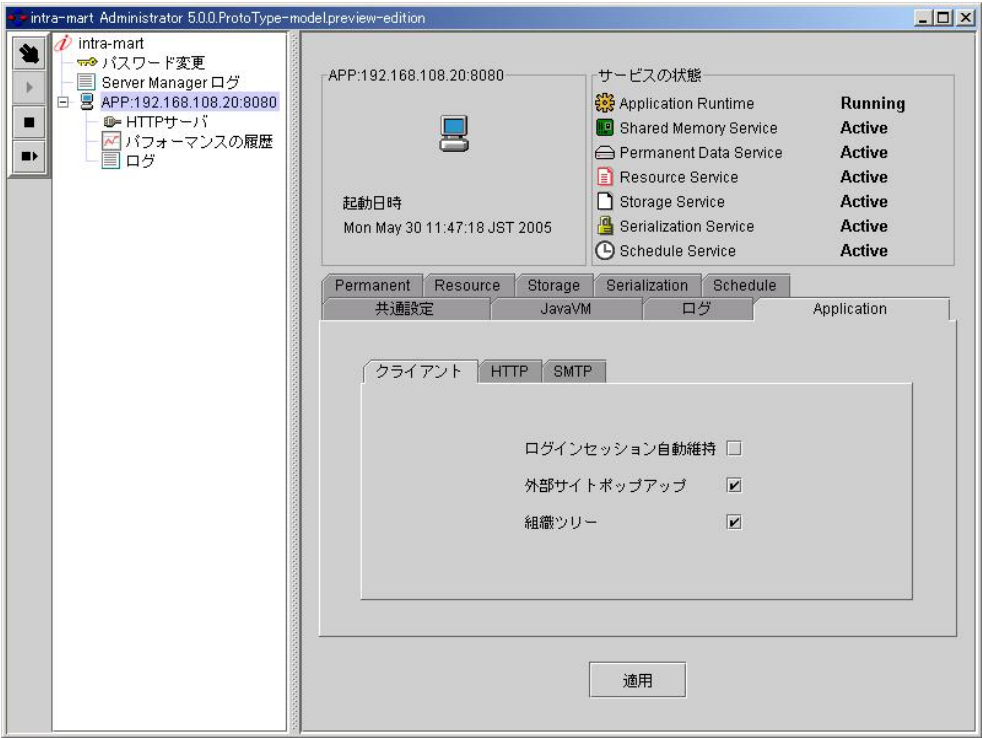


1.3.10.3 Application

Application Runtimeに関する設定です。

■ クライアント

クライアント出力の設定です。



ログインセッションの自動維持

外部サイトポップアップ

組織ツリー

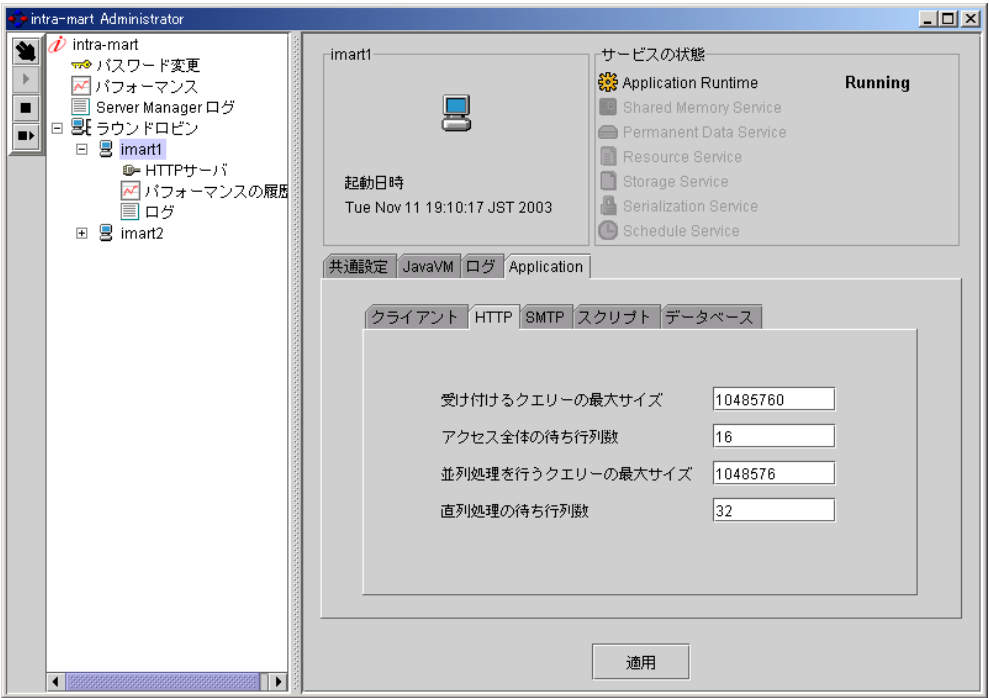
セッションタイムアウトを無効にします。

intra-martのメニューに登録された外部のサイトをポップアップウィンドウで開きます。

会社-組織、パブリックグループ、プライベートグループのメンテナンス画面とユーザ検索画面、組織検索画面に表示される組織ツリーをグラフィカル組織ツリーに切り替えます。切り替え後は全ての組織が画面に表示されますので、大量データ時などレスポンスの低下につながる場合は使用しないでください。

■ HTTP

HTTPに関する設定です。



受け付けるクエリーの最大サイズ	処理行うリクエストデータの最大サイズです。これを超えるサイズのデータは処理されません。
アクセス全体の待ち行列数	アクセス全体の待ち行列の数です。これを超えるリクエストは処理されません。
並列処理を行うクエリーの最大サイズ	同時に処理されるリクエストデータの最大サイズです。これを超えるサイズのデータは直列に処理されます。
直列処理の待ち行列数	直列処理の待ち行列数です。これを超えるリクエストは処理されません。

■ SMTP

SMTPサーバに関する設定です。



SMTPサーバアドレス

SMTPサーバのアドレスを指定します。

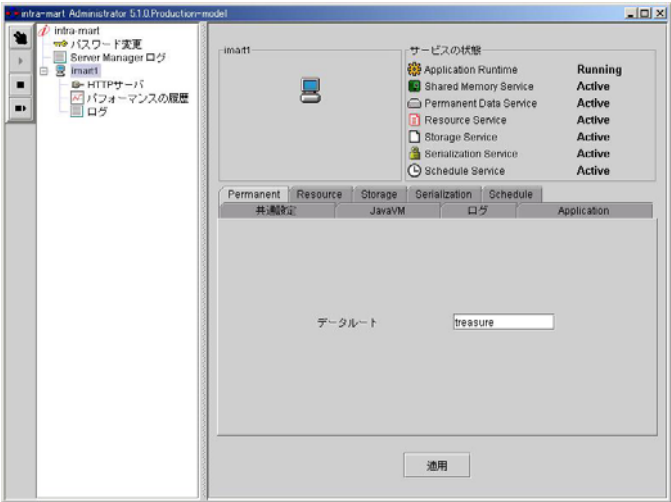
SMTPサーバポート

SMTPサーバのポートを指定します。



1.3.10.4 Permanent

Permanent Data Service に関する設定です。



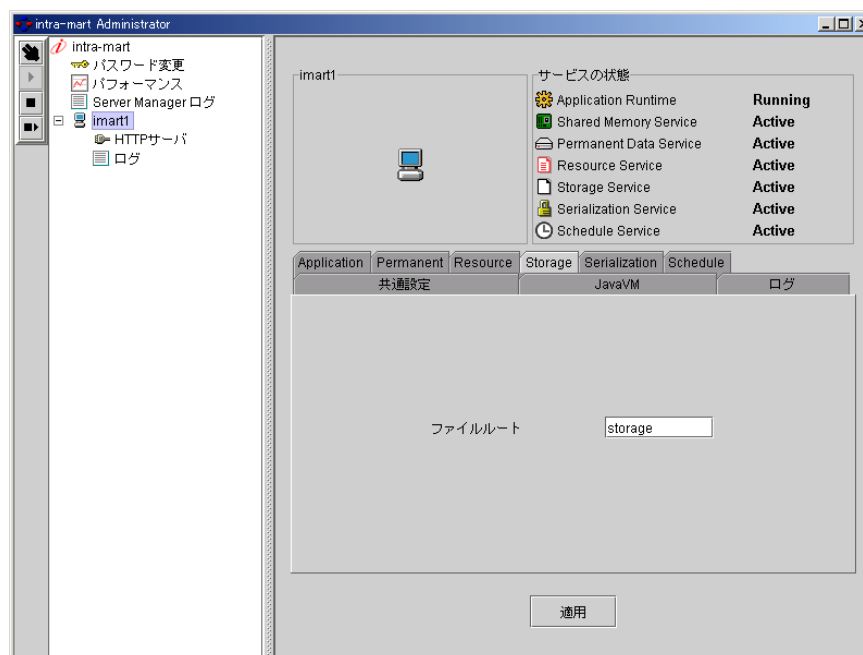
データルート

Permanent データを保存するルートディレクトリです。自動バックアップを有効
Permanent データのバックアップを行います。バックアップされたデータはデータ
ルート以下のhistoryディレクトリに保存されます。



1.3.10.5 Storage

Storage Serviceに関する設定です。



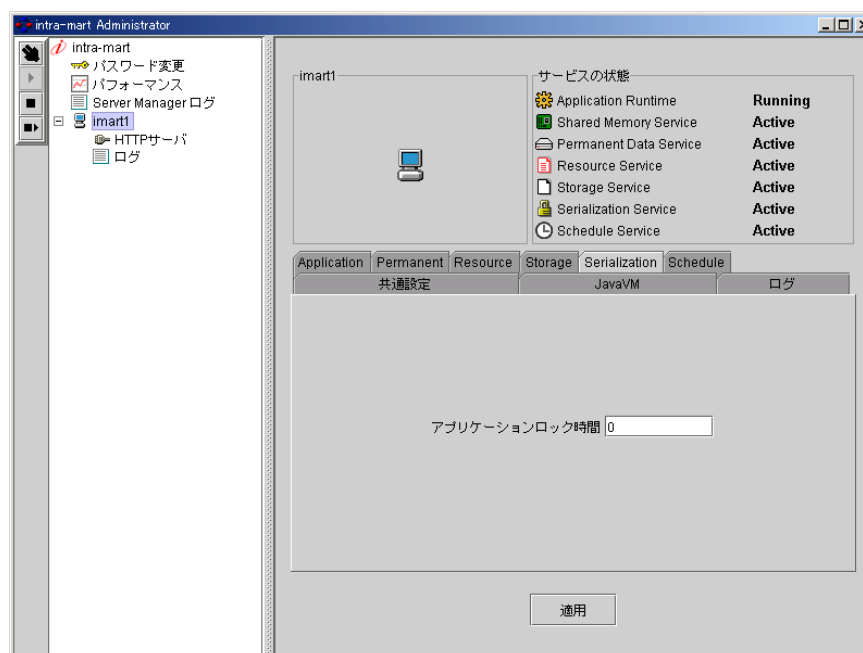
ファイルルート

ファイルを保存するルートディレクトリです。



1.3.10.6 Serialization

Serialization Serviceに関する設定です。



アプリケーションロック時間

スクリプト開発モデル、JavaEE開発モデルのプログラムのアプリケーションロックを継続する最大時間を指定します。「0」を指定した場合、一度設定されたロックフラグは明示的なロック解除がされないかぎり永久に開放されません。



1.3.10.7 Schedule

Schedule Serviceに関する設定です。



バッチロードタイム

監視時間

Schedule Serviceは毎日指定した時間に一日分のバッチ処理情報を読み込みます。設定情報は24時間表現で設定します。(例:01:00:00)

バッチ起動チェック用タイマー設定。この設定を短くすると、Service Platformの負荷が高くなります。逆に、この設定を長くすると、バッチ設定時間と実際にバッチプログラムが実行される時間とのタイムラグが大きくなります。最大監視時間分の実行遅延が発生する可能性があります。

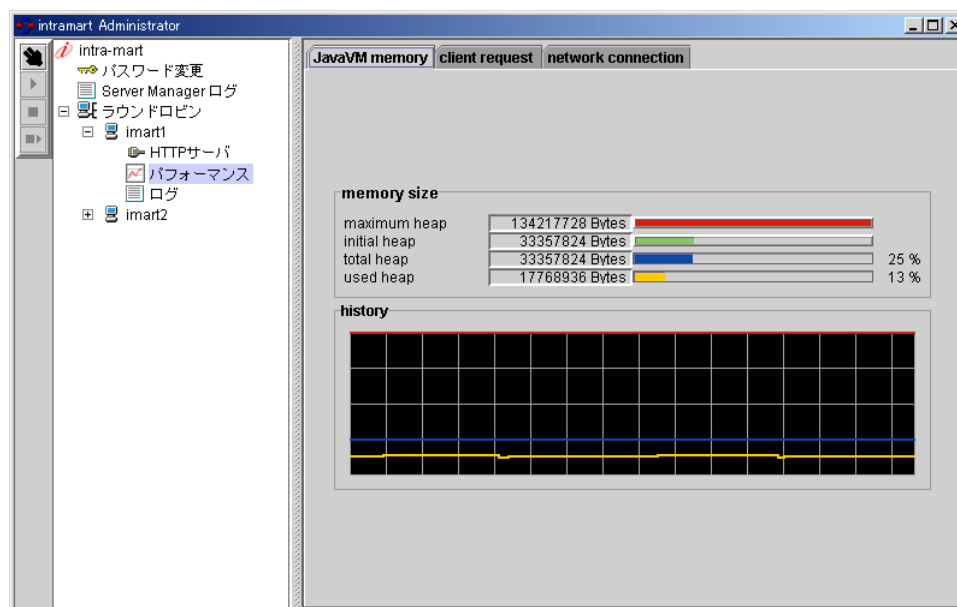


1.3.11 パフォーマンス表示



1.3.11.1 JavaVM memory

Service Platformのメモリ状態を表示します。



<パフォーマンス表示>

maximum heap

最大ヒープサイズ

initial heap

初期ヒープサイズ

total heap

ヒープの総容量

used heap

使用中のヒープサイズ

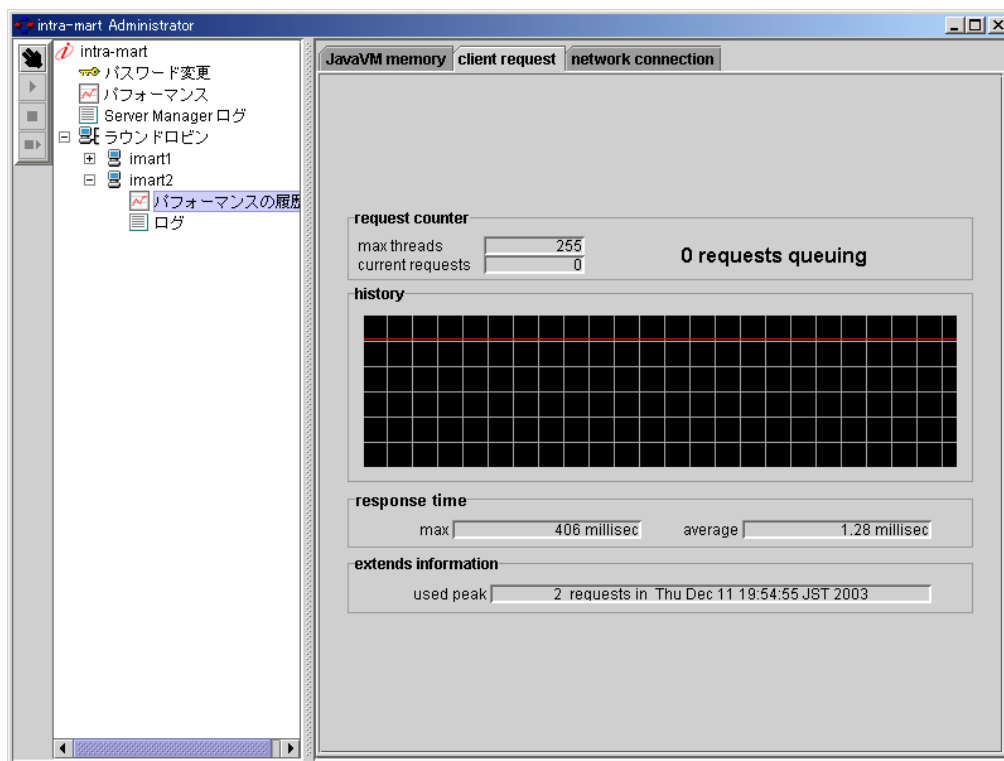


- Javaのヒープサイズの詳しい説明は、Javaの専門書をご覧ください。



1.3.11.2 client request

クライアントからのリクエスト数を表示します。Application Runtimeの場合はWebブラウザからのリクエスト、その他のService Platformの場合はApplication Runtimeからのリクエストを表示します。



request counter

max threads

current requests

requests queuing

response time

max

average

extends information

used peak

同時に処理が可能なリクエスト数です。Service Platform設定の「同時実行スレッド数」が表示されます。

現在受け付けているリクエストの数です。

同時処理数を超え、待ち状態になっているリクエストの数です。

レスポンスの最大遅延時間です。

レスポンスの平均時間です。

最大同時リクエスト数とその発生時間です。

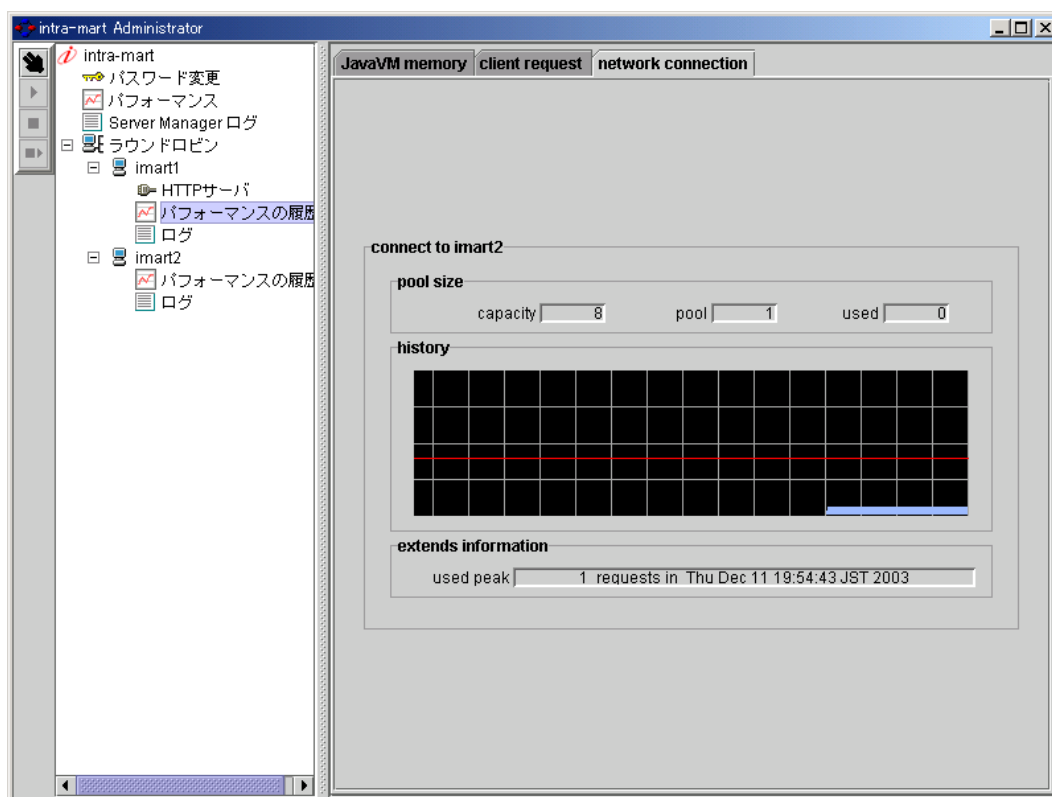


- この画面には一定の間隔でサーバの状態が表示されます。サーバの状態および計測のタイミングにより、必ずしもサーバの状態を正しく表示できないことがあります。
- ここに表示される情報は、サーバの状態を知るための参考としたり、パフォーマンスチューニング時の目安としてご活用ください。



1.3.11.3 network connection

Application Runtimeとその他のService Platformのコネクション状態を表示します。Service PlatformがApplication Runtimeの場合に表示されます。スタンドアロン環境の場合は表示されません。



pool size

capacity

pool

used

extends information

used peak

ネットワークコネクションの最大値が表示されます。Service Platform設定の「ネットワークコネクション数」が表示されます。この値を超えるコネクションは待ち状態となります。

現在保持しているコネクションプールの数です。

現在のコネクション数です。

最大同時コネクション数とその発生時間です。



- この画面には一定の間隔でサーバの状態が表示されます。サーバの状態および計測のタイミングにより、必ずしもサーバの状態を正しく表示できないことがあります。
- ここに表示される情報は、サーバの状態を知るための参考としたり、パフォーマンスチューニング時の目安としてご活用ください。



1.3.12 ログ

Service Platformのインストールディレクトリ配下にある「/log」ディレクトリ内のファイルを閲覧することができます。

The screenshot shows the 'intra-mart Administrator' interface. On the left, a tree view shows the 'log' directory under 'intra-mart'. The main pane displays a table of log files:

File Name	Size	Date
network.log	0	Tue Nov 18 13:5...
request.log	675,082	Mon Feb 16 20:1...
security.log	0	Tue Nov 18 13:5...
system.log	2,418,440	Wed Feb 18 14:0...
transition.log	761,289	Mon Feb 16 20:1...

Below the table, it shows '総データ件数: 13666' and '13601 - 13666 を表示'. The main list shows log entries with timestamps, log levels (INFO), and class names. At the bottom, there are navigation buttons: '最初', '戻る', '進む', '最後', and a '検索' button.

<Service Platformログの表示>



1.3.13 コマンドによるサーバの制御

IM-Administratorの画面からintra-martの各サービスプラットフォームを制御する以外に、コマンドラインからサーバマネージャに接続して制御する機能が用意されています。



1.3.13.1 コマンドの一般書式



Windowsの場合
(インストールディレクトリ)¥bin¥SrvCom.bat [機能コード] -u [addr]:[port]/[password] [オプション]

UNIXの場合
(インストールディレクトリ)/bin/SrvCom.sh [機能コード] -u [addr]:[port]/[password] [オプション]

[機能コード]	用意されている次の機能コードを指定します。 -show サーバの一覧を表示する -start [オプション]で指定したサーバを起動する -stop [オプション]で指定したサーバを停止する -restart [オプション]で指定したサーバを再起動する
[addr]	サーバマネージャのコンピュータアドレスを指定します。
[prot]	サーバマネージャの待ち受けポートを指定します。
[password]	パスワードを指定します。IM-Administratorにログインするときのパスワード。
[オプション]	制御対象となるサービスプラットフォームのサーバIDを指定します。 特定のサーバの場合 -id (サーバID) 全サーバを対象とする場合 -all サーバの表示の場合 (-show) オプション未指定 : 全サーバの情報を表示 -id : 指定されたサーバの状態のみを表示 ■-id で指定したサーバが動作している場合 そのサーバの情報を表示。 サーバの動作状況により、各サービスが、「enable」または「disable」のどちらかで表示される。 ■-id で指定したサーバが停止している場合 メッセージ「Service-Platform not found: サーバID」が表示される。 ■-id で指定したIDが存在しない場合 メッセージ「Service-Platform not found: サーバID」が表示される。 ■システム自体に Service-Platform が1つも動作していない場合 メッセージ「This system has no Service-Platform.」が表示される。



1.3.13.2 実行例

実行例として、特定のサーバを停止するコマンドの利用方法を説明します。
ここでは、次のような環境であるとしています。

Server ManagerをインストールしたマシンのIPアドレス	: 192.168.0.1
Server Managerをインストールしたマシンのポート	: 8080
intra-mart Administratorのパスワード	: intramart
コマンド処理の対象となるService PlatformのサーバID	: 192.168.0.2:ServicePort
intra-mart Administrator をインストールしたパス	: <%im_path%>

- 1 コマンドプロンプトを起動します。<%im_path%>/bin に移動します。次のコマンドを実行します。WindowとUNIXの例を示します。

Windowsのとき	
	<code>srvcom.bat -stop -u 192.168.0.1:8080/intramart -id 192.168.0.2:ServicePort</code>
UNIXのとき	
	<code>srvcom.sh -stop -u 192.168.0.1:8080/intramart -id 192.168.0.2:ServicePort</code>



- コマンドでサーバを制御するには、IM-Administratorがインストールされている必要があります。
- intra-mart AppFrameworkでは、Application Runtimeに対するコマンドによるサーバ制御はできません。
- 分散インストールしている環境において、システム全体を再起動する場合、「-restart」と「-all」オプションを同時に指定してService Platformを再起動すると各サーバの停止、起動のタイミングによって正常に再起動されない場合があります。システム全体を再起動させるには「-stop -all」オプションを実行し、全てのService Platformが停止したことを確認後、「-start -all」オプションで起動する方法をおすすめします。

第2章 設定ファイルによる機能拡張

2.1

システムデータベース設定

intra-mart WebPlatform/AppFrameworkは、複数のデータベースの利用が可能となっています。
1つのログイングループで複数のデータベースを使用する場合や複数のログイングループで1つのデータベースを使用する場合に、利用できます。

システムデータベース
(マルチデータベース)

複数設定可能です。
すべてのログイングループが利用できるデータベースです。



2.1.1 データベース設定の操作

設定は、サーバマネージャインストールディレクトリ/conf/data-source.xmlにて設定します。
以下に、設定の例を示します。

```
例:data-source.xml
<data-source>
  <system-data-source>
    <connect-id>system1</connect-id>
    <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/system1</resource-ref-name>
  </system-data-source>
  <system-data-source>
    <connect-id>system2</connect-id>
    <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/oracle</resource-ref-name>
  </system-data-source>
  ...
</data-source>
```

system-data-source
connect-id
resource-ref-name

システムデータベースのデータソース設定を行います。
接続ID (system-data-sourceでユニークなもの)
データソースを表すjndi名の設定を行います。



- データベースの設定を変更した場合は、アプリケーションランタイムの再起動が必要です。

2.2

パスワード履歴管理設定



2.2.1 パスワードの履歴管理

パスワード機能強化としてパスワードの履歴管理が行えます。おもな機能は次の通りです。

パスワード履歴管理（世代管理）

パスワードの有効期限管理

パスワード入力チェック

パスワードの履歴管理を行うと、初回ログイン時、パスワードの有効期限が切れたときに、自動的にパスワード変更の画面が表示されます。この場合、パスワードを変更することで正常にログインすることができます。また、一般ユーザは、[ユーザ管理]-[属性設定]画面で、パスワードの期限切れ通知を何日前に行うかを設定できます。



2.2.2 パスワード履歴管理の設定

intra-mart WebPlatformをインストールしたフォルダのconf配下にある次のファイルを編集することで変更することができます。

password-history.xml

以下はpassword-history.xmlの記述例です。

```
<password-history>
<group-default
accessor-class="jp.co.intra_mart.foundation.security.password.StandardPasswordHistoryA
ccessor">
  <change-password-first-login>true</change-password-first-login>
  <password-expire-limit>0</password-expire-limit>
  .
  デフォルトパラメータ群
  .
</group-default>

<groupname="default"
accessor-class="jp.co.intra_mart.foundation.security.password.StandardPasswordHistoryA
ccessor">
  <change-password-first-login>true</change-password-first-login>
  <password-expire-limit>0</password-expire-limit>
  .
  ログイングループパラメータ群
  .
</group>
</password-history>
```

以下は、用意されているタグ一覧です。

タグ名	属性	説明	デフォルト値
change-password-first-login	(なし)	初回ログイン時のパスワード変更要求の有無を設定します。	true

2.2 パスワード履歴管理設定

password-expire-limit	(なし)	パスワードの有効期限(日数)を設定します。0の場合無期限となります。	0
password-history-count	(なし)	何世代前まで世代管理を行うかを設定します。0の場合履歴管理を行いません。	0
deny-client-types	なし	記述クライアントタイプはパスワード変更画面には遷移しなくなります。	mobile
password-expire-page	(なし)	パスワード変更画面URLを設定します。	(欄外注1:参照)
check-password	enable	パスワードチェックの利用有無を判定します。 enable属性: true:利用 false:利用なし	false
check-password-length	enable	パスワードの文字数判定の利用有無とその範囲を設定します。 enable属性: true:利用 false:利用なし min属性: パスワードの最小文字数(半角数字,0以上)を設定します。 max属性: パスワードの最大文字数(半角数字,最大50)を設定します。 51文字以上は入力することができません。	false
	min		0
	max		50
allow-latin-letters	required	使用可能文字の設定(アルファベット)を行います。 required属性: 混在判定の利用有無 true: 利用 false: 利用なし	(欄外注2: 参照)
allow-number	required	使用可能文字の設定(数字)を行います。 required属性: 混在判定の利用有無 true: 利用 false: 利用なし	0123456789
allow-extra-char	required	使用可能文字の設定(その他の文字列、記号など)を行います。 required属性: 混在判定の利用有無 true: 利用 false: 利用なし	_.+,\$#!/@
deny-old-password	(なし)	パスワード履歴管理で管理されているパスワードは拒否するかどうかを設定します。 true: 利用 false: 利用なし	false
deny-userid	(なし)	useridと同じパスワードを拒否するかどうかを設定します。 true: 利用 false: 利用なし	false
password-cryption-class	(なし)	暗号化クラスを設定します。	(欄外注3: 参照)
return-initial-page	(なし)	パスワード有効期限切れの場合、パスワード変更後ログイン画面に戻るかそのままログイン処理を継続してログインするか判定します。 true: ログイン画面に戻ります。 false: ログイン処理を継続してログインします。	false

注1: /system/security/user/password_expire.jssp

注2: ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz

注3: jp.co.intra_mart.foundation.security.cryption.StandardCryption

※パスワード履歴管理の詳細に関しては、別冊「アクセスセキュリティ仕様書」を参照してください。

2.3

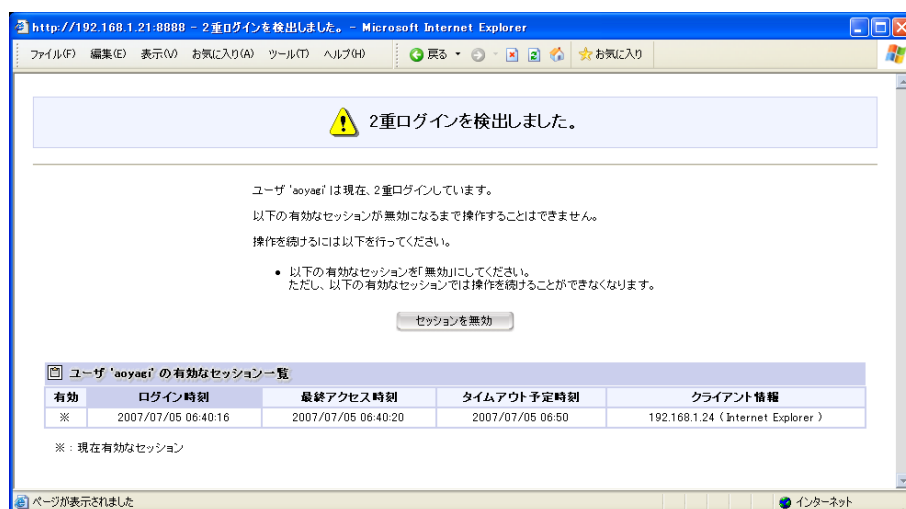
2重ログイン防止機能

intra-martには、2重ログインを防止する機能（デフォルト：無効）が用意されていて、有効・無効を切り替えることができます。

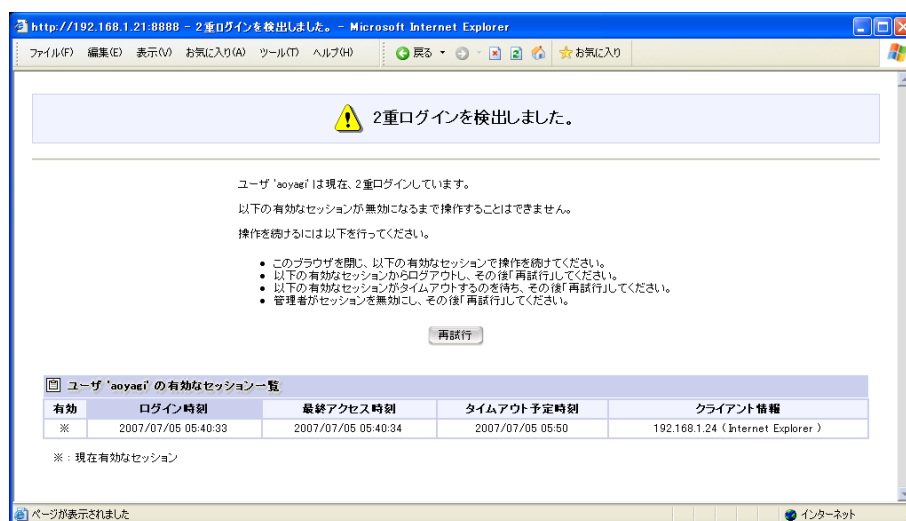
2重ログイン防止機能が有効になると、2つ目以降のセッションは無効となり、ログインが不可能になります。このため、ログインするには有効なセッションを無効化する必要があります。

2重ログイン防止機能の設定によって、一般ユーザやログイングループ管理者が自分自身で不要なセッションを無効化することができるように設定することもできます。

2重ログインが検出されると、以下のような画面が表示されます。



＜自分自身でセッションを無効化することができるように設定した場合の画面＞



＜2重ログインを通知のみする設定の画面＞

2重ログインを通知のみする設定の場合、そのままでは操作を継続することができません。この場合、次のような方法で操作を継続することができます。

- ❖ 有効なセッションで操作を継続する
- ❖ 有効なセッションをログアウトして、その後上記画面の[再試行]ボタンをクリックする
- ❖ 有効なセッションがタイムアウトするのを待ち、その後上記画面の[再試行]ボタンをクリックする
- ❖ システム管理者に有効なセッションの無効化を依頼して、その後上記画面の[再試行]ボタンをクリックする



2.3.1 2重ログイン防止機能を有効にする

2重ログイン防止機能を有効にするには、以下の設定ファイルを編集し、intra-martを再起動します。

```
conf/duplicate-login.xml
```

上記ファイルでは、以下の設定が行えます。

- ❖ ログイングループごとに設定が可能
- ❖ ログイングループ管理者の2重ログイン防止機能の有効/無効の切り替え
- ❖ 一般ユーザの2重ログイン防止機能の有効/無効の切り替え
- ❖ ログイングループ管理者がセッションを無効化できるかどうかの設定
- ❖ 一般ユーザがセッションを無効化できるかどうかの設定
- ❖ 2重ログイン検出時の遷移先ページパスの設定



- 設定の詳細は、別冊の「アクセスセキュリティ仕様書」を参照してください。



2.3.2 セッションの無効化の操作

システム管理者は、配下のグループ管理者に関して、ログイン状況を把握するとともに、セッションの無効化を図ることができます。操作は、[ログイングループセッション] 画面で行います。

The screenshot shows the 'グループ管理者 ログインセッション一覧' (Group Manager Login Session List) page. The left sidebar contains a menu with 'ログイングループセッション' (Login Group Session) highlighted. The main content area displays a table of active sessions. A checkbox labeled '有効' (Active) is checked, and a '無効化' (Disable) button is visible at the bottom right of the table area.

有効	ログイングループID	ユーザID	ログイン時刻	最終アクセス時刻	タイムアウト予定時刻	クライアント情報
<input checked="" type="checkbox"/>	※	default	2007/07/05 07:20:23	2007/07/05 07:20:23	2007/07/05 07:30	192.168.1.24 (Internet Explorer)

※：現在有効なセッション

無効化

<[ログイングループセッション]画面>

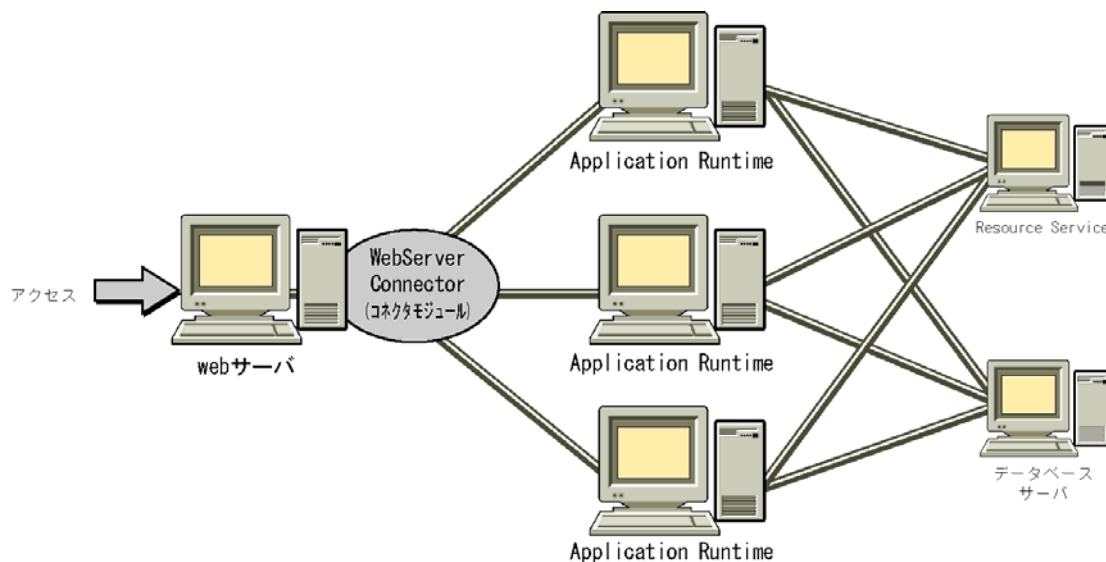
2.4

ラウンドロビン機能の利用

ラウンドロビン機能は、負荷分散ならびに障害対策のためにApplication Runtimeを複数設置して、クライアントからのアクセスを、登録されているApplication Runtimeに負荷分散する機能です。

この機能は、intra-mart WebPlatform(Resin)で利用できる機能で、

intra-mart WebPlatform(JBoss)、および、intra-mart AppFrameworkでは利用できません。



intra-martでは、Webサーバとintra-mart製品をむすぶWebServer Connector（コネクタモジュール）の設定によって、この機能を実現しています。



- アプリケーションサーバに内包されているintra-mart HTTPサーバを利用する際には、市販のクラスタ製品を利用して、負荷分散することになります。
- Application Runtimeを複数立てた場合、HttpSession（ログインセッション）をフェールオーバーさせることができます。
- 設定の詳細は、「設定ガイド」の「3.1 Web Server Connector」を参照してください。
- 詳しくは「設定ガイド」の「HttpSessionのフォールトトレランス設定方法」を参照してください。

2.5

HttpSessionのフェールオーバー

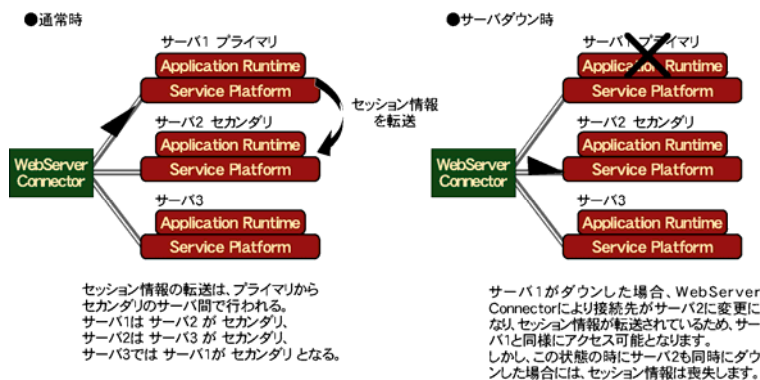
Application Runtimeを複数立てた場合、HttpSession（ログインセッション）をフェールオーバーさせることができます。この機能は、intra-mart WebPlatform(Resin)で利用できる機能で、intra-mart WebPlatform(JBoss)、および、intra-mart AppFrameworkでは利用できません。intra-mart WebPlatform(Resin)でのセッションフェールオーバーは、以下の2方式です。



- 詳しくは「設定ガイド」の「HttpSessionのフォールトトレランス設定方法」を参照してください。



2.5.1 メモリ to メモリ方式



メリット

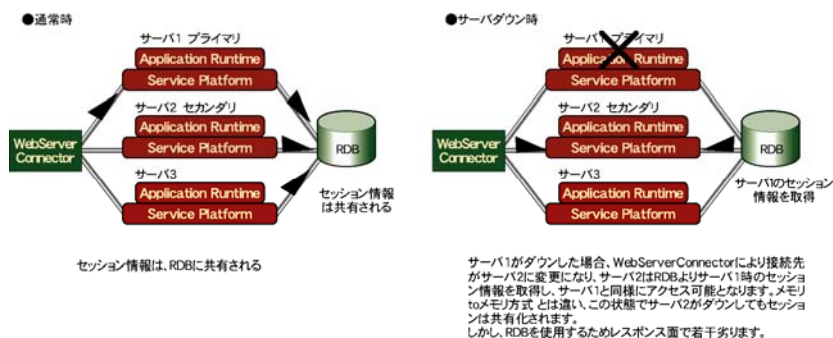
Application Runtimeの設定だけで構築可能。メモリto RDBと比較して、処理負担がない。

デメリット

バックアップ関係にある2台が両方もダウンするとセッションが消える。メモリto RDB方式に比べて設定が難。他のApplication Runtimeのメモリを保存するため、Application Runtimeのメモリ消費量が増える。



2.5.2 メモリ to RDB方式



メリット

Application Runtimeが何台ダウンしても、最低1台残ればセッションの継続が可能。メモリtoメモリ方式に比べて設定が容易。

デメリット

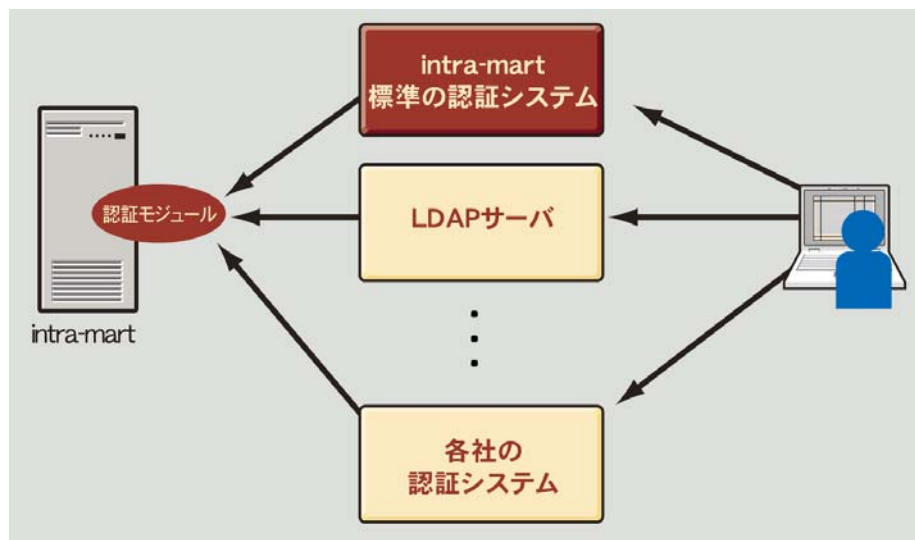
DBが必要。

市販のクラスタ製品を利用してラウンドロビン構成で運用する場合には、メモリ to RDBを推奨します。より堅牢なシステム構成にするには、メモリtoRDB方式を推奨します。

2.6

LDAPとの連携

intra-martは、ディレクトリサービスへの標準的なアクセス手段であるプロトコルLDAP（Lightweight Directory Access Protocol）にも対応しています。intra-martは、認証モジュールによって、intra-mart標準の認証システムをはじめ、LDAPサーバなどに接続して認証する形式となっています。この認証モジュールを変更することによって、各社の認証システムにも対応することができます。



〈認証モジュールでLDAPと連携〉



2.6.1 LDAP連携の設定

LDAP連携の設定は、以下の設定ファイルで行います。画面からは行えません。

```
%Server Manager%/conf/access-security.xml
```

security-config/user-security/auto-certificationおよびcertificationタグ内で設定します。

```
<certification-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.certification.LDAPUserCertification</certification-class>
<init-param>
  <param-name>ログイングループID.provider-url</param-name>
  <param-value>プロバイダURL</param-value>
</init-param>
<init-param>
  <param-name>ログイングループID.dn</param-name>
  <param-value>識別情報</param-value>
</init-param>
<init-param>
  <param-name>ログイングループID.context-factory</param-name>
  <param-value>コンテキストファクトリ</param-value>
</init-param>
```

ログイングループ単位に3つのパラメータを指定します。

ログイングループID.provider-url	プロバイダURLを設定します。 (例: ldap://localhost:389/)
ログイングループID.dn	識別情報を設定します。認証時には '?' にユーザIDが入ります。 (例: uid=?,ou=People, o=ldaps.intra-mart.jp)
ログイングループ ID.context-factory	コンテキストファクトリを設定します。 (例: com.sun.jndi.ldap.LdapCtxFactory)



- 設定後、サーバを再起動することで、パラメータに設定したLDAPサーバに認証を行うようになります。

2.7

ページカラーパターン

「1.2.3.1 [ログイングループ] タブ」で紹介した、ページカラーパターンは、ユーザの好みにより、自由にページカラーを変更することができます。



2.7.1 標準のページカラーパターン

標準で用意されているカラーは、次の5色で、各パスにCSSファイルやイメージファイルが用意されています。

カラーパターンコード	表示名	CSSパス	イメージパス
blue	青系	/skin/blue/blue.css	/skin/blue
		/skin/blue/color.css	
		/skin/blue/skin.css	
gray	グレー系	/skin/gray/gray.css	/skin/gray
		/skin/gray/color.css	
		/skin/gray/skin.css	
green	緑系	/skin/green/green.css	/skin/green
		/skin/green/color.css	
		/skin/green/skin.css	
orange	オレンジ系	/skin/orange/orange.css	/skin/orange
		/skin/orange/color.css	
		/skin/orange/skin.css	
red	赤系	/skin/red/red.css	/skin/red
		/skin/red/color.css	
		/skin/red/skin.css	

画面作成に関しては、以下のドキュメントを参照してください。

- ・画面デザインガイドライン
- ・スタイルシート仕様書
- ・アクセスセキュリティ仕様書

画面デザインガイドラインに準じたAPIも用意されています。API仕様は、画面デザインガイドラインのドキュメントに掲載されています。

2.8

設定ファイル、初期化ファイル

intra-mart WebPlatform/AppFrameworkには、設定ファイル「conf/imart.xml」と、起動時に一度だけ実行される初期化ファイル「pages/src/init.js」があります。設定ファイルには、intra-martが動作する上で必要となる各種情報が記述されており、ユーザが変更できる項目が含まれています。



- 設定ファイルや初期化ファイルを変更したときは、関連するサーバを再起動する必要があります。
- 設定ファイルの変更は、IM-Administratorから行うこともできます。（「1.3 IM-Administrator」参照）



2.8.1 設定ファイル「conf/imart.xml」

設定ファイル「conf/imart.xml」は、ServerManager、および、各ServicePlatformに1つずつ存在し、システム全体に関する設定が記述されています。設定を変更するには、書式に合わせて直接ファイルを書き換えるか、IM-Administratorを利用します。設定を変更した場合は、設定を変更したServerManagerやServicePlatformの再起動が必要となります。



- 各設定項目の詳細に関しては、「Service Platform 設定ガイド」を参照してください。



2.8.1.1 ユーザ定義の設定ファイル「*.ini」

スクリプト開発モデルでは、ユーザ定義の設定ファイルを利用することが可能です。

ユーザ定義の設定ファイルは、以下のように作成してください。

拡張子は「.ini」です

Resource Service の pages/src 配下に格納します

書式は「項目名=値」です

1行1項目の形式です

「#」以降は行末までコメントとなります

項目名は、大文字・小文字も厳密に判定されます

値はダブルクォード、シングルクォートで囲みません

設定ファイルの文字コードは、intra-martインストール時に指定したサーバモジュールの文字コードと同一にするか、Javaの国際化ツール「native2ascii」で変換を行ってください

ユーザ定義の設定ファイルの読み込みは、ファンクションコンテナAPI「System.read()」を利用します。

設定情報を取得するには、ファンクションコンテナAPI「System.getValue()」を利用します。詳しくは、APIリストを参照してください。



2.8.2 初期化ファイル「pages/src/init.js」

Resource Serviceにインストールされる 初期化ファイル「pages/src/init.js」は、intra-martが起動する時に一度だけ実行されます。このinit.jsファイルには、アプリケーションの初期化に必要な各種設定や、共通関数の読み込みおよび定義などを記述します。

- 初期化ファイルは、ServerManagerの「conf/sytem-install.xml」のsystem-install/initializer/application/script-nameタグで定義されています。

2.9

アクセスセキュリティの標準実装



2.9.1 標準実装における情報の保管場所

アクセスセキュリティ情報のintra-mart WebPlatform標準実装における保管場所は、以下のようになっています。

アクセスセキュリティ情報	保管場所	特記事項
対応ロール	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/system.xml サーバマネージャ/conf/il8n/locale_*.properties
対応クライアント	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/system.xml サーバマネージャ/conf/il8n/client_*.properties
対応カラーパターン	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/system.xml サーバマネージャ/conf/il8n/color_*.properties
システムデータベース	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/data-source.xml
メッセージ	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/message/*.properties
システムメニュー	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/system-menu.xml システム管理者のメニュー
システム管理者	Permanent Data Server	
管理メニュー	Permanent Data Server	ログイングループ管理者のメニュー
ログイングループ	Permanent Data Server	
グループデータベース	設定ファイル	サーバマネージャ/conf/data-source.xml
グループ管理者	Permanent Data Server	
アカウント	ログイングループのデータベース	アカウントのパスワードを暗号化
ロール	ログイングループのデータベース	
アクセスコントローラ	ログイングループのデータベース	
メニュー	ログイングループのデータベース	一般ユーザのメニュー
カレンダー	ログイングループのデータベース	
バッチ	ログイングループのデータベース	



2.9.2 標準実装における注意点

アクセスセキュリティ情報の中で、ログイングループに属するアカウント、ロール、アクセスコントローラ、メニュー、カレンダー、バッチは、データベースに保管されます。これらの情報について更新APIを用いて更新する場合、トランザクション内で更新処理を行ってください。



- アクセスセキュリティの管理方法は「グループ管理者 操作ガイド 5. アクセスセキュリティの管理」を参照してください。

第3章 Appendix

3.1

メンテナンス画面の文字入力制限

intra-martの各メンテナンス画面における文字の入力制限について説明します。



3.1.1 入力文字制限パターンの種類

intra-martの各メンテナンス画面の入力文字制限には、次のようなパターンがあります。以降の「適用フィールド」の説明では、入力項目のあとに、「入力文字制限パターンx」と記載しています。



3.1.1.1 ID、コード、パスワード系のフィールド(入力文字制限パターン1)

半角英数字と一部の半角記号のみ入力可能です。

■ 条件

- 半角数字(0-9)
- 半角英字(a-z A-Z)
- 文字'_'(Ox5f)
- 半角ハイフン(-)
- 半角アットマーク(@)
- 半角ピリオド(.)
- 半角プラス(+)
- 半角エクスクラメーション(!)



- 全角英数字と全角アンダースコアは半角に自動変換します。



3.1.1.2 パスワードフィールド(入力文字制限パターン2)

半角英数字と一部の半角記号のみ入力可能です。

■ 条件

- 半角数字(0-9)
- 半角英字(a-z A-Z)
- 文字'_'(Ox5f)
- 半角ハイフン(-)
- 半角アットマーク(@)
- 半角ピリオド(.)
- 半角プラス(+)
- 半角エクスクラメーション(!)
- 半角シャープ(#)
- 半角ドル記号(\$)
- 半角スラッシュ(/)



3.1.1.3 URL、メールアドレスフィールド(入力文字制限パターン3)

可視文字すべて（スペース以外*1）入力可能です。

■ 条件

- コントロールコード(0x00-0x1f,0x7f)を除く
- スペース(0x20)を除く
- 日本語等のWバイト文字も入力可能



- *1: 日本語ドメインが存在するため、半角、英数字チェックはしていません。



3.1.1.4 色コード設定フィールド(入力文字制限パターン4)

半角数字と半角英字A～Fまでの半角英字を入力可能です。

■ 条件

- 半角数字(0-9)
- 半角英字(a-fA-F)



3.1.1.5 値入力フィールド(ソートキー等)(入力文字制限パターン5)

数字のみ入力可能です。

■ 条件

- 半角数字(0-9)のみ
- 日本語等のWバイト文字を除く



3.1.1.6 名称や備考など(入力文字制限パターン6)

キーボードから入力可能な文字すべて入力可能です。

■ 条件

- コントロールコード(0x00-0x1f,0x7f)を除く
- スペース(0x20)も入力可能
- 日本語等のWバイト文字も入力可能



3.1.1.7 商品コード系のフィールド(入力文字制限パターン7)

半角英数字、ハイフン、アンダースコアのみ入力可能です。

■ 条件

- 半角数字(0-9)
- 半角英字(a-zA-Z)
- 文字'_'(0x5f)
- 半角ハイフン(-)



3.1.1.8 補足事項

■ コントロールコード

「コントロールコード」とは、下記の文字を意味しています。

0x00～0x1fの範囲に含まれる文字

文字 0x7f(Delete)



- これらは、ディスプレイに表示できず、コンソールに出力するとビーブ音出力される文字です。



3.1.2 適用フィールド



3.1.2.1 バッチ設定

バッチID → 入力文字制限パターン1



3.1.2.2 カレンダー設定

カレンダーID → 入力文字制限パターン1

データID → 入力文字制限パターン1

データ名 → 入力文字制限パターン1

表示色 → 入力文字制限パターン4



3.1.2.3 分類設定

分類コード → 入力文字制限パターン1

ソートキー → 入力文字制限パターン5



3.1.2.4 ログイングループ設定

ログイングループID → 入力文字制限パターン1

ユーザID → 入力文字制限パターン1

パスワード → 入力文字制限パターン2

パスワード（確認） → 入力文字制限パターン2

ページパターンID → 入力文字制限パターン1

ページURL → 入力文字制限パターン3

ページイメージURL → 入力文字制限パターン1

メールアドレス → 入力文字制限パターン3



3.1.2.5 役職設定

役職コード → 入力文字制限パターン1

ソートキー → 入力文字制限パターン5



3.1.2.6 会社設定

会社コード → 入力文字制限パターン1

組織コード → 入力文字制限パターン1

メールアドレス1 → 入力文字制限パターン3

メールアドレス2 → 入力文字制限パターン3

URL → 入力文字制限パターン3

ソートキー → 入力文字制限パターン5



3.1.2.7 パブリックグループ設定

グループセットコード → 入力文字制限パターン1
 グループコード → 入力文字制限パターン1
 ソートキー → 入力文字制限パターン5



3.1.2.8 ロール設定

ロールID → 入力文字制限パターン1
 ロール名 → 入力文字制限パターン1
 カテゴリ → 入力文字制限パターン1



3.1.2.9 システム管理者設定

ユーザID → 入力文字制限パターン1
 パスワード → 入力文字制限パターン2
 パスワード（確認） → 入力文字制限パターン2
 メールアドレス → 入力文字制限パターン3



3.1.2.10 アカウント設定

ユーザコード → 入力文字制限パターン1
 パスワード → 入力文字制限パターン2
 確認パスワード → 入力文字制限パターン2
 モバイルパスワード → 入力文字制限パターン2
 確認モバイルパスワード → 入力文字制限パターン2
 メールアドレス1 → 入力文字制限パターン3
 メールアドレス2 → 入力文字制限パターン3
 携帯メールアドレス → 入力文字制限パターン3
 URL → 入力文字制限パターン3
 ソートキー → 入力文字制限パターン5



3.1.2.11 管理メニュー設定

URL → 入力文字制限パターン3



3.1.2.12 メニュー設定

メニューID → 入力文字制限パターン1



3.1.2.13 商品設定

商品コード → 入力文字制限パターン7
 商品型番 → 入力文字制限パターン7
 販売単価 → 入力文字制限パターン5
 仕入単価 → 入力文字制限パターン5



3.1.2.14 商品テンプレート設定

テンプレートコード → 入力文字制限パターン1



3.1.2.15 商品カテゴリ設定

商品カテゴリコード → 入力文字制限パターン1

ソートキー → 入力文字制限パターン5



3.1.2.16 商品取扱設定

取扱コード → 入力文字制限パターン1

単価 → 入力文字制限パターン5

数量 → 入力文字制限パターン5

仕入単価 → 入力文字制限パターン5



3.1.2.17 ViewCreator – データ参照メンテナンス

データ参照CD → 入力文字制限パターン1

▶▶ |

IM-Administrator

HttpSession	45
Http サーバ.....	24
JavaVM.....	26
LDAP	46
Server Manager ログ	21
Service Platform.....	20, 23
ラウンドロビン機能	44

▶▶ い

一般ユーザ

ログイン画面なしで自動認証する	4
-----------------------	---

▶▶ か

監視サーバの設定	25
----------------	----

▶▶ き

IM-Administrator

起動と終了	19
起動と終了	2

▶▶ こ

IM-AdministratorIM-Administrator

コマンドによるサーバの制御	36
---------------------	----

▶▶ し

システム管理者

imart.xml	49
init.js.....	49
監視ツール	19
管理メニュー設定	2
システム管理者設定	2, 7
データベース操作	17
ファイル操作	16
ページカラーパターン.....	9
ホーム画面	5
メインページパターン	9
メニュー.....	5
ライセンス	8
ライセンス管理	2
ログアウト	5
ログイン	3
ログイングループ ID	9
ログイングループ管理.....	2

ログイングループの設定.....	8
ログイングループライセンス数	9
システム管理者システム管理者の業務	2

▶▶ て

データベース

データベース設定.....	6, 39
データベース接続設定	2

▶▶ に

2 重ログイン防止機能	42
-------------------	----

▶▶ は

IM-Administrator

パスワード	21
パスワード	40
履歴管理	40
IM-Administrator	
8.12 パフォーマンス表示	32
パフォーマンス表示	23

▶▶ ま

マルチデータベース	6, 39
-----------------	-------

▶▶ め

IM-Administrator

メニューの説明	20
メンテナンス画面の文字入力制限.....	52

▶▶ ら

IM-Administrator

ラウンドロビン	22
---------------	----

▶▶ ろ

□グ

IM-Administrator	35
------------------------	----

□グイン

アカウントロック回数.....	9
アカウントロック期間.....	9

□グイングループ

アクセス権設定	15
管理メニュー設定	13
フォルダの作成	14
フォルダやページの表示順.....	16
ページの作成.....	15
ログイングループの追加.....	11
ログイングループライセンス	13



intra-mart WebPlatform/AppFramework Ver.7.0

2011/06/30 第4版

システム管理者 操作ガイド

株式会社 NTT データ イントラマート

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-17-22 赤坂ツインタワー本館 3階

TEL(03)5549-2821 FAX(03)5549-2816

E-mail : info@intra-mart.jp

ホームページ : <http://www.intra-mart.jp>

Copyright 2000-2011 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

※本マニュアルに記載されている社名および商品名は、一般に各社の商標および登録商標です。